

論文

大学総合型地域スポーツクラブ を用いたアクティブラーニング プログラムに関する考察

宮崎 純一

キーワード

総合型地域スポーツクラブ
アクティブラーニング

目次

- はじめに
- 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの先行研究
 - 大学拠点の総合型地域スポーツクラブの発展過程
 - トリプルヘリックスモデルを応用した産官学連携スポーツクラブ事例研究
 - 北海道教育大学函館分校「SPORTS 北海道函館キャンパス」の取り組み
 - 法政大学の取り組み「法政クラブ」の事例
- CAS プロジェクトとオール青山スポーツコミュニティの取り組み
 - 大学総合型地域スポーツクラブとしての取り組み
 - 小学生年代のスポーツ離れと活動環境の創出
 - 女性のスポーツ機会創出／女性活躍社会をスポーツで達成する施策／子育て世代におけるスポーツとの関わり方
 - 高齢者の心身の健康／高齢者の健康寿命延伸を目的とした施策
 - 異文化交流とインクルーシブコミュニティの創生
 - 障がい者の生活環境をスポーツ活動を通じて体験する
 - アスリートのパフォーマンス向上プログラム
 - オール青山スポーツコミュニティプロジェクトと社会貢献事業への参画
- アクティブラーニングプログラムの一環としての大学総合型地域スポーツクラブ活動
- まとめ
- 参考文献

1 はじめに

本研究は大学資源を活用した総合型地域スポーツクラブ事業を用いたアクティブラーニングプログラムの有用性を評価することを目的とする。2020年初頭には世界的な規模で、新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進み、同年4月には緊急事態宣言が発令され日常生活は一変した。外出を控え、厳しい環境下で不安と共に生活を送る環境下でスポーツ活動も制限され、日常から遠ざかって行った。次第にスポーツに親しむ機会が失われていくなか、「新しい日常」として形を変え人々の暮らしにその関りを見出し始めていた。オンライン対応によるコーチングシステム、無観客開催試合や入場制限、デジタル配信による新たな試合観戦環境等を創出した。これらの取り組みはスポーツを通じて、人々や社会を勇気づけ、日常を取り戻すことに繋がり、あらためて「スポーツのチカラ」や可能性を体感することとなった。

そのような社会状況の中で2022年3月25日には、スポーツ基本法に基づき文部科学省が策定した第3期スポーツ基本計画施行され、国内におけるスポーツ振興政策を発展的に前進させるべく始動した。国民のスポーツ実施率の更なる向上を掲げ「①スポーツを『つくる／はぐくむ』、②『あつまり』スポーツを『ともに』行い、『つながり』を感じる。③スポーツに『誰もがアクセス』できる」といった3つの視点から施策を行うことを示した。これに伴いスポーツ庁が提示した「感動する大学スポーツ総合支援事業」を実効あるものとすべく大学スポーツ協会（UNIVAS）に委託された「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業」が公募され、本学は初年度にあたる2022年度これを受託した。本学においては「これからの社会を担う新たなスポーツ指導者育成システム開発（CASプロジェクト）」として、これに取り組んだ。事業の中核となるのは「研修プログラム」と実践の場を提供する「地域・社会連携イベント」であり、このプロジェクトの両輪と位置付けられる。既報では、両輪のひとつとして大学総合型地域スポーツクラブを目指す学院内ボトムアッププロジェクト「オール青山スポーツコミュニティ」が実施した「地域・社会連携イベント」に対して社会課題対応への有用性、有効性に評価を加えた。2023年度の採択は叶わなかったが、事業継続による社会課題への対応は、継続的な施策として有用であると考ええる。

そこで本稿では、これら事業の原点ともいえる「スポーツによる社会課題の解決」という目標を果たすために実施された、本年度上半期の本学における「CASプロジェクト」と「オール青山スポーツコミュニティ」プロジェクトによる社会連携事業を振り返り目的別に検討し、評価を加える。さらに大学内における発展的な取り組みとすべく学部、学科を超えたアクティブラーニングプログラム拠点として活用する可能性に考察を加える。

2 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの先行研究

2-1 大学拠点の総合型地域スポーツクラブの発展過程

与那覇²³⁾の報告では「1995年に『総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業』がスタートしてから20年以上が経過し、2018年には設立された総合型地域スポーツクラブの数は3,445クラブを数えた。」としながらも「全国の各市区町村において少なくともひとつは総合型クラブを育成するという施策が掲げられ活動が推進されてきた一方で、ここ数年のクラブ育成率は約80%で推移している」とし、近年はその育成率が停滞していることを示している。

海老島²⁾は、2000年に施行されたスポーツ振興基本計画に示された総合型地域スポーツクラブ構想の影響を振り返り「大学における新たな主体的地域貢献を可能にした。」と評価している。また、地域における社会スポーツ活動の先進国といえるドイツ、オーストリアでは大学施設を用いた地域クラブが多数存在する事例を紹介している。さらに当時の国内調査報告より「今回の調査結果（2012年）からも明らかなように大学が主体となってクラブ作りを展開している事例も多く、エリート選手が使用する競技用施設を使用して、大学教員や学生が指導者、マネジメントスタッフとして対応するという人材が確保されておりクラブ作りとしてはまたとない環境である。」と大学施設及び人材の可能性を高く評価している。

中村¹²⁾の報告では2000年2月に、早稲田大学を拠点として設立された「所沢市西地区総合型地域スポーツクラブ」は大学初の取り組みとして、全国各地の大学においても総合型地域スポーツクラブ育成を推進する契機となったと位置づけている。これ以降、大学における取り組み事例報告も増加した。大学が主体となり総合型地域スポーツクラブを設立、育成した事例も多く、海老島²⁾によると2012年時点で体育系学部、学科、専攻（コース）を有する全国145大学及び12短期大学の約3割が総合型地域スポーツクラブの活動を大学内の施設で実施しており、そのうち大学が設立した例が16%、施設を貸与している例が8%認められた。このように地域貢献の一環として大学が核となり総合型地域スポーツクラブを育成した事例は全国的に広がりを見せる。

炭谷¹⁶⁾は総合型地域スポーツクラブを大学に設置する意義として、学生の教育と地域への貢献の2点を指摘した。教育面の意義としては、学生へのアクティブラーニングの機会提供、地域貢献の意義としては大学資源の地域への開放が該当することを示している。大学のスポーツ資源（学生、指導者、研究者、施設等）の活用は地域の活性化の起爆剤となり得ることを重ねて指摘し、大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの在り方を検証することが有意義な示唆をもたらすとした。さらに炭谷は、大学経営の視点からも「少子化時代を迎え、学生獲得に向けて益々競争が激化している大学間でブランドを高めるための方策として地域貢献に積極的に取り組んでいる大学も増加している。また、地域に開かれた大学の必要性を問われて久しいなか、大学の地域貢献の形としては大学教員が地方自治体の委員会等で専門

性を生かした所見を述べる、大学の研究室が地方自治体、企業から委託研究を請け負うといった受動的な形式が一般的であった。能動的な形式としては公開講座以外方策を見出すことが難しかったのが現状である。」とより積極的な社会貢献の要求が高まる大学の現状に合致する施策であることを強調した。

池田³⁾は、大学の経営・教育におけるスポーツの果たす意義について以下のように論じている。経年的な少子化による18歳人口の減少、国公立大学の法人化などを契機とした「大学の社会的使命」への認識の高まりとして従来の学術研究、人材育成に加え教育研究成果を広く社会へ提供する事業、社会発展への寄与などを求めている。これら社会貢献の充実は、経営強化のための、生き残りをかけた取り組みとして認識されている。体育・スポーツ分野に限らず、これまで各大学においては、各種教室、公開講座、生涯学習センターなど様々な地域貢献の取り組み実施されてきた。即ち大学による総合型地域スポーツクラブの推進は、大学の存在意義を示し、経営力を強化するために必要とされる地域貢献活動の一側面であると認識される。

また、池田が遠因として「大学における教養教育の大綱化」を取り上げ論じている。「一部の大学において保健体育科目を、必修から選択科目へ、または時間数の削減や科目自体を廃止する動きがみられた。幸い、保健体育科目の担当教員やその組織による尽力、近年若年層に顕著にみられる体力低下などから大学におけるスポーツ活動の必要性が改めて認識されたことなど指摘された。」加えて近年では、健康寿命の延伸が国策として重視されることから若年層から健康意識の向上が求められ、従来の保健体育科目の必要性は担保されることとなったが「このように大学体育を担当する教員およびその組織は、現在も危機感を持ってこの問題を直視し、有意義な教育実践を模索している。」と指摘している。さらに積極的な施策につながる取り組みとして大学におけるスポーツ資源が注目されるなか「スポーツプログラムはサービス財であり、大学にはこのサービス財とサービスの供給者（教員・学生）、スポーツ施設が同時に存在しているというメリットがある。」と積極的な施策の可能性を示唆している。

2-2 トリプルヘリックスモデルを応用した産官学連携スポーツクラブ事例研究

トリプルヘリックスとは直訳すると「三重螺旋」と表記され、イノベーション創造のためのシステム理論モデルと認知されている。与那覇ら²²⁾の報告では「大学・産業界・政府」という3つの要素が相互協力することによってイノベーションを創出モデルであるとしている。トリプルヘリックスモデルは、地域イノベーションのために新たな取り組みを創出する場にも応用されている。これを地域トリプルヘリックスモデルと称し、知識空間 (knowledge space)、コンセンサス空間 (consensus space)、イノベーション空間 (innovation space)

の3スペースから構成される (Etzkowitz and Zhou, 2018)。与那覇²²⁾は、この理論モデルを応用し地域におけるイノベーション事業として、大学を拠点とする総合型地域スポーツクラブの事例研究を報告をしている。本来、[大学・産業・政府]の3要素から構成されるトリプルヘリックスモデルを「総合型クラブ・大学・地域」の三者に変換し検証を進めた。「大学を拠点とした総合型クラブの活動の場は『大学』や『地域』であり、これら三者の連携による相互作用を明らかにすることで大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの在り方を提示する。そして、三者の連携による相互作用の理解を深めるために『地域トリプルヘリックスモデル』の3スペースにおける各組織の役割を捉えることで、総合型地域スポーツクラブが大学や地域との連携、協働体制構築の経緯を明らかにすることが可能となる。」と異なる地域で活動する大学総合型地域スポーツクラブの評価を試みた。

与那覇²²⁾は、Etzkowitzらの唱えた理論をもとに「大学の使命は核となる教育・研究の実践であり、他のグループから独立性を保つ部分「インターナルコア」(円の中核をなす部分)が存在する。いっぽうで大学は社会・地域貢献などの役割を果たしながら外側の場で産業界と影響し合い相乗効果を生み出す「エクスターナルフィールド」(円の外周部分で張りブリッドが可能なエリア)を有する。産業界や政府も同様であり、三者の独立性を担保するインターナルコアと三者が影響を及ぼしあうエクスターナルフィールドから構成される。また、トリプルヘリックスモデルにおいては、分野に関わらずネットワークの形成やヘリックス間の横断、ヘリックス内部を循環する組織の誕生が期待され、循環する内容としては人、情報、アウトプット等が想定されている。(Etzkowitzら2009)

地域トリプルヘリックスモデルを援用した実証的研究は希少である。与那覇は、[大学・産業・行政]の相互作用と地域における新しい企業の設立やアントレプレナーシップとの関連を検証した報告は興味深いとして「Marques (2014)は、大学と関連する事業支援会社18社を対象として、『イノベーション空間』を測定する6つの指標(大学の技術移転、投資家、サイエンスパーク、アントレプレナーシップ・トレーニングプログラム、芸術家の誘致、起業支援事業者)と、『知識空間』を測定する5つの指標(産学の共同研究、アカデミアの開放、信用に基づくアントレプレナーシップ、学生のインターンシップ、社会的な学習ネットワーク)、『コンセンサス空間』を測定する5つの指標(行政の介入、産業の介入、地方自治体の介入、大学のサポート、地域の介入)を用いて調査を実施した。その結果、イノベーション空間においては、地域における新規事業開始の頻度、スタートさせる土壌があるか、知識空間においては、大学と産業界の関わりで研究・開発が可能か、コンセンサス空間においては、産官学の連携・協働の度合いを確認している。」という。当該研究の与那覇の報告における対象クラブとして分析された内容には「Aクラブではこうした課題を解決するために、先進的なプログラム「ソフト」を積極的に取り入れ、収益を確保していくことで卒業生の雇用

〔人材〕に繋げていた。さらに、Cクラブでは学生の指導者養成を積極的に進めることでイノベーション空間が形成されていた。これらは Marques (2014) がイノベーション空間の指標として示した、大学の技術移転やアントレプレナーシップ・トレーニングプログラムの実践に対応するものであった。」と考察し、大学拠点の総合型地域スポーツクラブが教育分野においてイノベーション創出の可能性があることを示唆した。

2-3 北海道教育大学函館分校「SPORTS 北海道函館キャンパス」の取り組み

北海道教育大学函館分校は、2008 年より大学総合型地域スポーツクラブ「SPORTS 北海道函館キャンパス」において幅広い年代に対するスポーツ活動の提供を実践していることが報告されている。2018 年度には、定期教室として「スポーツあそびすと」(小学 1、2 年生対象)、「Do 遊パーク」(小学 3、4 年生対象)、「冬期教室」(小学 1~4 年生対象)、「ジュニアサッカー教室 Bambi」(小学 1~4 年生対象)、「すぼると広場」(高齢者対象)、「スポーツ遊 ING」(子どもの保護者対象)があり、毎週あるいは隔週で活動を実施している。その他、カヌー体験、トレッキング、雪遊びなど地域の特色を生かした自然と触れ合う企画を年に 5 回実施している²⁴⁾。これらの運営や活動のサポートは、北海道教育大学函館校に所属する学生スタッフである。その中で、吉村²⁴⁾は若年層の子供たち対象の事業に対して以下のように教員と学生の関与を示している。「筆者(吉村)はそれぞれの活動における事前打ち合わせ及び活動へのコメントを毎回行っている」として、学生の総合型地域スポーツクラブ活動への関与を授業科目として捉え、大学教員がこれを指導することで教育的な意義を担保する手法を紹介している。

2-4 法政大学の取り組み「法政クラブ」の事例

法政大学は、多摩キャンパスを拠点の総合型地域スポーツクラブ設置及び運営を長きにわたり実施、研究対象としてきた。この事例研究は興味深い示唆を与えるものである。

荻部⁵⁾は「法政大学を母体とし活動している特定非営利活動法人総合型地域スポーツクラブ法政クラブ(以下、法政クラブとする)は、2010 年 4 月に法政大学多摩キャンパス内に設立され、2020 年を以て創設 10 年を迎えた。設立当時、大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブは少なかったが、現在では多くの大学が地域貢献を目的として総合型クラブを設立し活動している。」として、これに続く設立経緯として以下のように報告している。「法政クラブは、2007 年に法政大学エクステンションカレッジで開講されていた陸上競技教室、アスリート倶楽部を前身とする。アスリート倶楽部はその後、2009 年に法政大学体育・スポーツ研究センター(現法政大学スポーツ研究センター)のスポーツ講座として組み込まれた。そして、法政大学 130 周年に向けた『明日の法政を創る』審議会によるスポーツクラブの設

立の検討を経て、法政大学体育・スポーツ研究センターが開催していたスポーツ講座を請け負う形で2010年に法政クラブが設立された」と、地域及び社会に開かれた大学事業の一環としてスタートしたことに触れている。

その後の組織の成り立ちは興味深い経緯があり「クラブは法政大学のミッションの一つであり、設立当時は理事長を法政大学総長が務めた、現在は多摩キャンパス担当常務理事が理事長職に就いている。」という。クラブ会員に関しては「2019年の総会員数は、中学生以下300名、一般（高校生以上）128名の合計428名である。（中略）法政クラブは比較的規模の大きいクラブと位置付けられている。全国調査（スポーツ庁2018年）における平均的クラブの会員内訳では、小学生が全体の15.3%、中学生が全体の4.2%、未就学生が全体の3.3%であり、中学生以下は全体で22.8%である。法政クラブは、428人中、300人が中学生以下で約70.1%を占める。2019年の年代別会員では、未就学0人（0%）、小学生266人（61.1%）、中学生34人（7.9%）、10代10人（2.3%）、20代3人（0.7%）、30代13人（3.0%）、40代61人（14.3%）、50代37人（8.6%）、60代4人0.9%）、70代0人（0%）であった。」と活動の指針を反映した会員構成が確認できる。関連してクラブ活動の方針が興味深く読み取れる報告がある。「2012年にはバスケットボール、サッカー教室が開講、法政クラブは『多種目』という総合型クラブの指針に則り、多くの競技を抱えることとなった。」としながらも、会員数の減少、運営の課題を敏感にとらえながら方向性を定めている。「教室によっては会員数の減少もあり、採算の取れない教室があり、安全面に問題がある、指導法にクレームを受けるなどクラブ内で会員への定期的調査により、スリム化や効率化、指導方法の改善を図った。」など、運営面に継続的評価を加えながら改善した経緯が読み取れる。さらに、興味深い指針としては「クラブの教室は、チームを形成するものではないことを設立段階に決めており、近隣の既存少年スポーツクラブから会員を取り合うなどの軋轢を避ける、既存クラブと連携を密にして、地域の連携拠点となることを目指した。」など立ち位置の明確化を初期段階から継続していることが伺える。加えて「教室」という名称から「塾」に変更することにより既存スポーツクラブや学校の課外活動に所属していても気軽に専門的練習を体験できる場として位置づけが明確化された。

本学のCASプロジェクトの一環として2023年9月に取り組んだ相模原キャンパス近隣の小学校での『オール青山陸上競技サポート活動』は、相模原全域小学校連合運動会の事前練習をサポートする活動であった。法政クラブの報告内にも2022年度事業報告に市内小学校及び連合運動会をサポートする活動を長年実施しているという記述があった。「相模原市では、10月下旬に3日間にわたって市内すべての小学校が参加する『相模原市立小学校連合運動会』を開催している。この連合運動会に向けた講師派遣という形で陸上指導を実施している。（中略）法政クラブは拠点を町田市に置くが、近隣3都市（町田市、相模原市、八

王子市)と連携を深め、地域に根差した総合型クラブとして認知されつつある。」と、地域特性を見極めつつ、大学資源としての「場」と「人材」を社会貢献と教育的メリットの視点から評価することの重要性を示唆している。

荏部⁵⁾は、長年地域と密接な関係を構築してきたクラブならではの成果として、大学生のアクティブラーニングへ発展した事例を報告している。「2014年に八王子市狭間の新体育館の設立において、住友不動産と協力し整備運営事業の業務委託契約を締結、新体育館における事業に協力することとなった。ここでは法政クラブがイベントや教室に講師を派遣している。また、2011年には法政大学スポーツ健康学部の授業(青少年スポーツ実習:現在は青少年指導実習)としてアスレチックトレーナーの現場実習が体験できる機会を提供しており、2020年からは学生のインターンシップを受け入れる。」と、大学資源としての『人材』を契機として、新たな『場』を学外に獲得して、教育活動の機会を広げる成果を残している。

クラブ運営の展望の中で財源に関して触れているがスポーツ庁(2018)による「平成30年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」の中で指摘された課題について以下の通り「人材の確保」、「活動拠点の確保」、「事業の多様性」、「財政的自立」、「運営体制の整備」について報告された。「法政クラブは大学を拠点としており、人材の確保、活動拠点についての課題は少ない。運営体制の整備においても町田市、相模原市、八王子市との連携を強め、他総合型クラブとの連携も推し進めている。財政については、会費収入、参加費収入などの受益者負担による財源確保を軸としているものの、自治体との事業提携、大学からの業務委託による財源の割合も高い。従って、潤沢な財源の確保には至っておらず、大学への依存度は高い現状である。」とクラブ経営に関連する課題を分析している。

また、学際的視点からこの活動を評価する海老島ら²⁾の報告では「全国50の体育系学部、学科、専攻をもつ大学、短期大学の調査において、スポーツボランティアとして24%の大学が組織的に実施、うち約70%が単位認定している。大学主導で総合型クラブを運営することで『地域連携センター』や『学生スポーツボランティア』、『生涯スポーツ実践研究センター』等の名称で付置施設を設置することで学生活動を支援している。」という。本学でも近年の社会連携機構設置、社会連携課発足の動きから地域社会を包括したスポーツ活動に関連して学生や教員の学際的活動を推進する好機となることが見込まれる。

より効率的で教育機関として有用な事業実施に向け法政クラブは以下のような体制作りに取り組んでいるという。「クラブでは学生の事務局のアルバイトを採用、2020年からはインターンシップを受け入れる。しかしながら、有給の活動が主であり、学生のボランティア活動による参加は少ない。既存の地域交流センターやボランティアセンターとの連携を深めることができればスポーツ健康学部だけではなく、他学部の学生の参加が期待できる。」と、より広範な学生たちの学びの機会を創出する可能性を探っている。また、地域においても「活

動の拠点や事務局が大学内にあることや交通の便の悪さから、地域住民の法政クラブ運営への参画は少ない。近隣の住民への認知をさらに高め、法政クラブの運営に関しても地域住民に積極的に参加できるような環境の整備が必要である。」と運営体制への長期的視野に基づいた課題抽出も示唆された。「クラブは会員数も安定し、講座のスクラップアンドビルドを繰り返しながら現在の形となった。今後は更なる発展、成長するために、大学、自治体との連携を深め、大学の保有する人的、物的資源を活用し、地域のニーズに合わせた持続可能な活動を担っていくことが使命」としている。

最後に荊部⁴⁾は、クラブ発足直後の興味深い将来展望を残している。「将来的にこうしたスポーツクラブがオリンピックを目指すような一流の選手を抱えるようになればと考えている。経済状況が国際的に悪化する昨今、企業スポーツは衰退し、多くのスポーツ選手がその活動を十分に行えない環境となっている。スポーツクラブは誰もが楽しく参加でき、多種目多世代で楽しむものだが、その中に日本を代表するような選手がおり、その選手をクラブ生で支援し、応援していくスタイルも良いのではないかと考えている。多種目多世代に加え、目指すレベルも楽しみや健康志向から競技スポーツまで様々で、いろいろな目的の人がスポーツを通じて一つのコミュニティを形成していくことが理想である」とクラブマネージャーとしての立ち位置から、理想とするスポーツコミュニティ作りを開設当初から示していたことに共感を覚えるものである。

3 CAS プロジェクトとオール青山スポーツコミュニティの取り組み

3-1 大学総合型地域スポーツクラブとしての取り組み

2022年2月25日スポーツ庁より公募のあった「第3期スポーツ基本計画（スポーツによる地方創生、まちづくり）」の関連施策のひとつ「感動する大学スポーツ総合支援事業」として既報の通り取り組まれた。事業主旨として記された内容には「大学スポーツは、単に一部の学生アスリートにとってのみ重要なものではなく、多くの学生にとっても健康の維持増進や社会的スキルの獲得といったスポーツの価値・効用を得ることができる貴重なものである。」といった根源的なスポーツの必要性に加え「大学は、豊富なスポーツ資源（人材、施設、知識など）を有し、大学スポーツを通じて地域社会の発展を支える存在として地域で重要な地位を占めている。（中略）大学スポーツによる地域振興を促進することが重要である。」とし、地域のスポーツ機会創出さらにはスポーツコミュニティの中核として大学スポーツのポテンシャルに期待する施策と捉えられる。2022年8月には、スポーツ庁より一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）に事業委託され「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業」とより具体的かつ明確な達成目標を掲げた事業となった。青山学院大学は前回、第2期スポーツ基本計画で唱えられた「スポーツ環境の基盤となる『人材』と『場』の充実」

令和5年度 大学スポーツ資源を活用した 地域振興モデル創出支援事業選定大学一覧

	大学名	取組名
1	旭川市立大学	北の大学コンソーシアムの連携強化による大学生の生涯スポーツ習慣賦活化
2	大阪体育大学	大阪体育大学 競技体験会+フレンドリーマッチ
3	鹿屋体育大学	鹿屋体育大学による鹿屋市民のウェルビーイングを実現する地域密着型ヘルス&スポーツプロモーションモデル事業
4	九州共立大学	九州共立大学による北九州地区を対象としたアダプテッドスポーツの展開 ～世代を超えたアダプテッドスポーツの実践が多世代共生型コミュニティを創出する～
5	群馬大学	スポーツ医学に基づいた指導者・トレーニング方法の普及
6	静岡大学	静岡大学のスポーツ資源を活かした静岡市協創社会構想プロジェクト ～大谷・小笠地区を中心として～
7	周南公立大学	「LIFE IS SPORTS@しばふプロジェクト」
8	阪南大学	まつばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ ～持続可能な循環型スポーツクラブの実現～
9	福岡大学	「新しい地域スポーツの価値創造基盤の構築」～福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム事業の推進、継続と城南区6中学校部活動の地域移行トライアルの一体的取り組み～
10	立命館大学	立命館大学による「びわこ・くさつWell-beingコンソーシアム」を通じた地域のスポーツ推進ならびに多世代が交流できる健康コミュニティ創出事業

を支える施策として取り上げられた「大学スポーツの振興」に引き続き、事業計画が採択された。前項では文部科学省及びスポーツ庁が中心となり取り組んだ国内のスポーツ振興施策の概要を確認し、継続的テーマとして取り組まれたコミュニティにおけるスポーツの果たす役割を検討した。2023年度第2期には選定は叶わなかったが、学内のプロジェクトは学院の長期的なビジョンに基づいた社会連携事業の一環として継続される。特にCASプロジェクトの推進は総合型地域スポーツクラブの活動を活用した「中学校の部活外部移行」など、社会課題への対応に有効な施策となるであろう。次項からは、本学の取り組みを振り返るとともに社会課題に対してどのような役割を果たしたか評価を加え、課題を抽出する。加えて諸事業に対してアクティブラーニングプログラムへの発展性を論じるための研究資料収集等を併せて実施し検討を加える。

3-2 小学生年代のスポーツ離れと活動環境の創出

コロナ禍を経て子供の体力低下が懸念されるなか、スポーツに親しむ機会を設け積極的に取り組む機会は有用である。デジタルデバイスの発展は若年層の生活環境にも大きな影響を与えている。対面で人と人との関係を直接構築していく環境は益々希少なものとなっていくであろう。健康的な日常を獲得し、体力向上を目指し活力あふれる生活を獲得するためにスポーツは貢献する。さらに既に若くして様々なコミュニティと関わりを持つことが日常となる若年層にとってスポーツを通じて育んだバイタリティ、コミュニケーションスキル、フェアプレイスピリッツなどは有用なスキルとして活用されるものと考えられる。

CASプロジェクト実践事業においてはマルチスポーツへの取り組みを推奨するため「キッズスポーツチャレンジ」と称し、様々なスポーツへの体験企画を実施している。将来的には様々なスポーツ種目へ進んで行くための契機となること、同一運動を繰り返すことによるスポーツ障害の回避などが目的となる。体育会クラブと各競技団体の全面協力を得て充実した指導が実践された。

また今夏、発展形として新たに実施した「マルチスポーツ体験」は、「キッズスポーツチャレンジ」で体験した様々なスポーツを一過性で終わることなく、定期的に多種目スポーツを継続実施する環境を設定することを目的とした企画である。

プロジェクトのスタートアップとしてサッカーに関連する企画は毎週月曜日開催「グラスルーツサッカースキルアップクラス」と隔週土曜日開催「GK 教室・指導者研修」を実施している。いずれも外部指導者を招聘し、指導者として研修を希望する高校生、大学生、一般社会人、プロサッカー選手が各回に参加している。特にサッカーにおいては希少なポジションであり、特殊な技能を要する GK というポジションに特化した教室及び指導者研修は参加する子供たちはもちろんのこと保護者、視察に訪れる方々から称賛の声を頂いている。毎回30名から40名の GK が一堂に会し、トレーニングを共にし、コミュニケーションを図り、元気いっぱいに切磋琢磨する光景は心動かされる機会となる。

近年、子供たちの野球離れが指摘される反面、エンターテインメントとしてのプロ野球は活況を博している。特に春先には WBC で日本代表が優勝するなど国内のファンのみならず一般の視聴者も野球に注目することとなった。本学硬式野球部も東都リーグ春秋制覇、全日本大学野球選手権優勝と素晴らしい成果を残すなか、若年層への楽しい野球の普及発展と近隣住民の皆さん、学院セカンダリーの児童たちとの青学野球を通じた交流を実現するため「青学野球部ベースボール教室」を開催することとなった。

3-2-1 オール青山キッズスポーツチャレンジ（青山キャンパス年間2回、相模原キャンパス年間1回開催）

名称：「第2回オール青山キッズスポーツチャレンジ」

日程：2023年7月22日（土）9:00～12:00

会場：青山キャンパス記念館体育館フロア

対象：小学生および保護者

参加者：児童49名（男子33名、女子16名） 保護者 約30名

運営・指導者：48名

活動内容：

児童、保護者を対象に様々なスポーツ（今回は10種目）を体験する。また、障がいのあ

※写真提供：石黒樹氏（大学広報部）



MC ちょんまげ隊長ツンさん



会場全景



陸上競技体験



車いすバスケ体験



車いすバスケ 望月選手



ボッチャ体験



レスリング体験



バレーボール体験



ラクロス体験



ボクシング体験



社交ダンスデモンストレーション

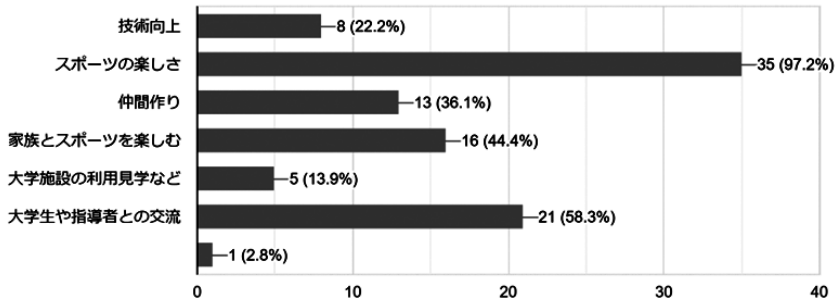


会場運営

性別	学年	所属	印象に残ったチャレンジ項目について	学生や指導者について	運営について	その他
女	未就学, 小学4年	青山学院初等部	ポッチャという競技を知らなかったんですが、やってみると、奥深くて楽しい項目でした。小4の娘よりも、5歳の息子の方が上手で、家族で盛り上がりました。 全体的にとっても楽しい時間をすごせて、感謝しております。	バレーボールをやった時に、マンツーマンで厚く教えて頂けて、初心者でも楽しくできました。	盛り上げてくださっていて、イベントに楽しかったです。進行もスムーズで、良かったです。	バドミントン、卓球などが楽しそうです。
女	小学6年	青山学院初等部	車椅子バスケットボール バレーボール ポッチャがあるのを見て、前回参加させていただき楽しかったのですが、またやりたいとのことで参加しました。何回か試合をしたのですが、勝って楽しかったようです。	私は初めて車椅子バスケットボールをしたのですが、コーチができる限り優しく、分かりやすく説明して下さったので、普通のバスケットボールとの難しさの違いなど様々な事を短い間で学ぶ事ができました。とても感謝しています。 バレーボールも同じく、やった事はあってもこつが分からなかったり、サーブができなかったりしたので、優しく教えて下さって、本当に嬉しかったです。 どちらもとても最高の機会となりました。	今回、学校で案内があまり大々的では無かったのですが、申し込みが少なかったのかな。とおもいました。	2回目の参加でしたが、今回も楽しかったです。皆様のおかげです。 次回も楽しみにしております。 ありがとうございます。
男	小学2年	青山学院初等部	ポッチャがあるのを見て、前回参加させていただき楽しかったのですが、またやりたいとのことで参加しました。何回か試合をしたのですが、勝って楽しかったようです。	皆さんとても丁寧にやり方を教えてくださり、車イスもラクロスも初めてだったにもかかわらずとても楽しく活動することができました。	運割して参加させていただいたのですが、とても丁寧にご対応いただきありがとうございます。	幼稚園生も楽しく参加させていただいたのですが、他のお友達も勝ったので、旅行の予定が入っていたりして来れませんでした。試合などの都合で難しいかもしれないのですが長男以外の方が良いかもしれませ
女	小学3年, 保護者	青山学院初等部	車椅子バスケットボール ラクロス 車椅子バスケットは操作が楽しく、車椅子の技がすごかった。フットサルは3対3で人数なくて攻めたり守ったり難しく、運転ゴールもあって盛り上がりました。社交ダンスは今まで知りませんでしたが、とても楽しいスポーツだということがよくわかりました。	皆さんとても丁寧にやり方を教えてくださり、車イスもラクロスも初めてだったにもかかわらずとても楽しく活動することができました。	2件分申し込んだのですが1件分しか返信がこず当日大丈夫かな？と少し心配しながら伺いましたがスムーズに対応していただきました。	他にも挑戦してみたい競技ばかりだったのでもう少し長い時間で開催されたらいいのと思いました。
女	小学4年, 保護者	青山学院初等部	車椅子バスケットは操作が楽しく、車椅子の技がすごかった。フットサルは3対3で人数なくて攻めたり守ったり難しく、運転ゴールもあって盛り上がりました。社交ダンスは今まで知りませんでしたが、とても楽しいスポーツだということがよくわかりました。	サッカーに興味があるので、三宮選手を見出した方に初等部生も教えてもらえたら嬉しいですが	スムーズな運営をワンさんはじめ、ありがとうございます！	四半期に一度、ぜひ！午前中が動きやすいです。競争制にはトラックで教えてもらいたいです。正直賞にもぜひ！パラスポーツもブラインドサッカーなど機会があれば嬉しいです
女	小学6年, 保護者	青山学院初等部	車椅子バスケットボール	皆さん丁寧にかつ優しく教えてくれたので、楽しさがよくわかりました。	全て大満足です。	ワンさんのMCが最高。前回のようになぞモノストレーション見たたんです。車椅子バスケットボールはもっともっとやりたいし、みに行きたいと思いました。
女	小学4年	青山学院初等部	車椅子バスケットボール 車椅子になる事が初めてで、パラスポーツという印象ではなく、楽しく取り組めた	バレーボールでは、選手がとても親切に丁寧に教えてくれ、上手にできなくても助言し続ける根気強く盛り上げてくれたのが嬉しかった。	当日の説明もわかりやすくてとても良かったです。すごい選手が大勢来てくれて、本当に感激でした。みんな優しく楽しかった。次回もぜひ参加したいです。	バドミントンにチャレンジしたい。今回あんなに、時間がなくてチャレンジできなかった項目もやってみたい。
男	小学2年	青山学院横浜英和小学校	バレーは担当の方がつきっきりで教えてくれたとても楽しかったと言っていました。 レスリングも全員でオリンピックをひっくり返すチャレンジが楽しかったそうです。 車イスバスケットも、車椅子に乗ること自体初めてで貴重な体験をさせていただきました。	サッカーは、時間中ずっとゲームだったので、もう少し技術の面について練習やアドバイスをいただけたらさらに良かったと思います。	今回は友人にこのような体験があるとき参加させていただきました。時間、場所、案内、イベント当日の流れも全てスムーズに行われていて、ストレスなく楽しめました。	オリンピックや全国優勝されている方など、神々たる方々に指導いただいた本場に貴重な機会をいただいたと思います。次回以降もこのような優秀な方々にお会いできる機会があると色々な方々に興味を持って、今でもやったことのないものをもっとも気に入るスポーツを始めるときかけたりすると思いますので、ぜひ今後も開催日を少しずつ覚えてから観ていてほしいと思います。
男	小学1年		バレーボール	みなさん、優しく教えてくれました。途中にお話もでき、子供は来年も絶対いきたい！と言っています。		
女	小学3年, 保護者	青山学院初等部	車椅子バスケットボール	学生さんともコーチの方も皆さん優しく丁寧に教えて下さり感謝しています。	スタートが少し遅れたので一つ一つの体験時間が短くなったのが少し残念でした。	時間はこれまでの様な午前中が丁度良いと思います。ラグビー、バドミントンにチャレンジしてみたいです。
女	小学2年	青山学院初等部	車椅子バスケット	箱根駅伝選手	日程の早めのアナウンス	ラグビー
女	小学3年	青山学院初等部	車椅子バスケット	皆さん、とても親切で楽しく教えて下さった。	司会の方が上手だった。 全てスムーズに出来たので、運営の方々に感謝致します。	また参加したいです。 車椅子バスケットがもう一度やりたいです。
男	小学2年, 小学5年, 保護者	神奈川県厚木市	レスリング 初めて体験したスポーツでした。こんなに楽しいスポーツなのかと実感でした。実際に体験してみて、楽しさや楽しさがよくわかりました。楽しさも感じるが、自分がやってみて初めて分かることがあり、今までよりも身近に感じる事が出来た。なので、やることがないスポーツを体験してみたいになりました。また、子供にもいるようなスポーツを体験させたいくなりました。	それぞれのスポーツのコーチや学生が丁寧に楽しそうにやっているので印象的でした。その楽しさや姿で教えてくれたので、子供たちも楽しかったそうです。	とても楽しませていただき、大満足です。	運営は大家とは思いますが、イベントの時間をもう少し長くしていただいて、ほかの競技もやってみたいかったです。次回を楽しみにしています。また参加させていただきます。
	小学1年, 小学3年	青山学院初等部	車椅子バスケットボール	どの項目もコーチが皆さん丁寧に教えてくださりとても楽しめました。	参加人数が少なかったのがやりにくい項目にチャレンジできてよかったです。	折角のイベントですのでもっとも参加人数を増やせるように学校のテラシカをあげるように思います。

このイベントに期待することを選択して下さい。

36件の回答



研修参加者に対しての記述式調査は2023年9月にインターネットメディアを利用して発送、回収を実施した。企画・運営者、指導者として参加した2名より回答があった。

- ・あなたにとってスポーツ活動の意義
- ・あなたの関わったオール青山スポーツコミュニティの活動で感じたこと
- ・その他の感想、意見など

①大学生 経営学部3年 競技ダンス ※キッズスポーツチャレンジ、マルチスポーツ

・私が考えるスポーツ活動の意義は、人々の生活をより豊かにすることである。スポーツには人の生活、心を豊かにする要素がたくさんある。まずは運動することで、健康的な体を保つことができるし、体を動かす事自体が非常に健康に良い。また、運動はストレス解消にもつながり、ちょっとした息抜きにも適している。そして何よりも、スポーツは、自然に人と人との交流を作り出してくれる。スポーツをすることで、人々に会う機会が自然と生まれ、スポーツをしながら会話や交流が自然と生まれる。これは現代を生きる人々にとって、とても必要な事ではないかと考える。少子高齢化により、高齢者の健康寿命が重要視されてきたり、ストレス社会や人々の交流が昔と比べて少なくなったと言われている今こそ、スポーツ活動を促すことを我々が企画したり、実施することは、人々の生活をより豊かにしていることに直結している。私はそこにスポーツ活動をやることの素晴らしさを感じる。

- ・キッズスポーツチャレンジ企画を通して感じたこと

私は社交ダンスの担当として、キッズスポーツチャレンジに参加させていただきました。まず、ダンスをやっていない子供達の前で社交ダンスを教えたり、披露したりする機会は今までほとんどなく、どのようにダンスの素晴らしさを伝えれば良いか非常に悩みました。そんな中、実際に参加してみて、非常にたくさんの学びと発見がありました。

まず、一つ目の発見は、社交ダンスは体験してもらうことのハードルは非常に高いという

事。他の球技や道具を使ったスポーツのほうが子供達にとって興味のあるものであるということを感じました。実際に自分たちのブースに来てくれた子供たちは2人にとどまり、これはある意味予想外でした。でもこれはきちんと受け入れないといけないことで、これから社交ダンスをたくさんの子供達に体験してもらおうと思うと、しっかりと興味の惹く内容で、やってみたいと思ってもらえるようにはどういうようにしたら良いかをきちんと考えないといけないと感じました。一方で手応えを感じた部分もあります。それは、社交ダンスは実際に踊っているところを見てもらうことで子供達の興味が惹くことができるという事。今回のイベントの中で、最後に一曲、子供達全員の前で踊らせてもらう機会をいただきました。その時に子供たちは非常に真剣な眼差しで僕たちの踊りを見てくれて、体験ブース時間中は全く興味を示してくれなかった子供たちも、踊り終わった後に、写真をとってくださいと何人かが声をかけてくれました。ここに一つ大きな手応えを感じました。社交ダンスはやってみたいからやってみようというより、ダンスを見て、こんな風に踊ってみたい、こんな綺麗なドレス来てみたいというような興味の方が湧きやすいということに気づきました。これらの発見や学びは、実際に子供達に社交ダンスを体験してもらって、素直な反応を見ないとわからないことでした。なかなか、普段子供達の前に露出することが少ない社交ダンス、やはり、どんどん子供達の前で踊る機会を増やしていかないといけないと感じました。実際にやっている側の社交ダンスのイメージと、全くやっていない人たちが感じる事は全く違うと思うので、今回のイベントのような社交ダンスをやっていない人たちと交流することで、広い視野で社交ダンスを考えられるようにしていきたいです。また、社交ダンスは子供達だけに限らず、お年寄りまで幅広い世代の人が一緒にできて、とても健康に良いスポーツなので、今度はお年寄りの方と交流するなど、色々な世代の方と社交ダンスを通して交流していきたいと思いました。

②大学生 経営学部4年生 ※障がい者サッカー体験、キッズスポーツチャレンジなど

・あなたの考えるスポーツ活動の意義

スポーツ活動の意義は、非日常的な刺激を与えてくれて、私たちの感情が豊かになる事だと考えます。例えば、するスポーツの観点では、日常では味わえないような身体への負荷やそれを乗り越えた後の達成感、乗り越えられなかった時の悔しさなど、スポーツによる刺激が自身の感情に起伏を起こさせてくれ、それが次への活動のモチベーションになります。また、見るスポーツの観点では、選手のプレーやそれに呼応したファンの応援、スタジアムの雰囲気など様々な非日常的な刺激を五感で受ける事によって、スタジアムとの一貫感が得られ、生きがいになります。この様に、スポーツは様々な側面で、非日常的な刺激を人々に与えてくれる為、その人の生活に彩を加える性質があると考えます。そして、これこそが、ス

スポーツ活動の意義だと思います。

3-2-2 GK 教室・指導者研修（隔週土曜日 年間 24 回開催）

名称：「GK クリニック」運営協力：footballcoach

会場：青山学院高中部グラウンド

対象：小学生以上（上限年齢、性別制限なし）

外部指導者：1 名

運営担当：2 名

指導研修スタッフ：8～12 名

活動内容：

指導研修に参加する指導者は、教室参加者集合の 60 分前から打ち合わせ及び指導実践を行い教室に備える。その後小学生から高校、大学、ご子息と参加する保護者、60 歳の現役シニアリーグ選手まで様々なカテゴリーの選手と共に 90 分のセッションを実施する。最後には保護者、見学者全員が集まりコミュニティリーダーとのトークセッションにて当日の



募集サイト



活動の様子

※2023年前期実績		
GK教室・指導者研修		
		参加者
1	4月22日	41
2	5月13日	30
3	5月27日	32
4	6月10日	29
5	6月24日	15
6	7月8日	35
7	7月22日	25
	合計（のべ）	207

セッションのまとめを伝達される。過去には現役日本代表 GK、アジア大会女子代表優勝 GK などトレーニングに参加者を共にして、メッセージに参加者に伝えるというスペシャル企画も好評を博した。指導研修参加者は任意参加ではあるが 30 分ほどの振り返りミーティングを行いセッションの成果、課題の確認を行う。本稿に掲載した 2 名の参加者も意欲的に目標に向かって毎回活動し、成果を実感していると報告している。

研修参加者に対しての記述式調査は 2023 年 8 月にインターネットメディアを利用して発送、回収を実施した。指導、運営担当者として参加した高校生 1 名、大学生 1 名より回答があった。

- ・選手・指導者としての活動のメリット
- ・将来的に自分の何に役立つのか
- ・今後どのように展開していきたいか

大学 4 年生 GK 教室・指導者研修参加（1 年） ※ S 大学体育会サッカー部所属

- ・選手・指導者としての活動のメリット

私は現在、専修大学体育会サッカー部でプレーヤーとして活動をしながら、クリニックの活動に参加させて頂いています。選手としてのメリットは、大学で練習や試合等、日々の取り組みを通して自分自身がインプットした事を、クリニックに参加して頂いている様々な世代の選手と共に取り組む事でアウトプットすることが出来る事です。私自身が実感した事、日頃試合の中で起こりうるシチュエーションをイメージしてもらいながら共にプレーをしています。参加して頂いている選手と本気で共にプレーをして、言葉で伝えていく事で、選手達が成長し、私自身も成長できるという大きなメリットがあります。アウトプット出来る環境がある事がとても有難いです。

- ・将来的に自分の何に役立つのか

私自身、クリニックを通じて様々な世代の方々とコミュニケーションをとる事で社会性を育んできました。お陰様の気持ちを持つ事そして言葉で表現する事、自分以外の他者のために目配り、気配り、心配りを行う大切さなど、人として生きていく上で大事な事を勉強させて頂きました。きっとこのような社会で生きていく上で大事な事は、来年から社会人として働きお金を貰う自分にとっては、大きな財産であり今後の人生に必ず役立つと信じています。このような社会性を私だけでなく、参加して頂いている選手達にも育んでもらうために、まず自分自身が見本となり大切さを伝えていきます。

- ・今後どのように展開していきたいか

私自身このクリニックを通じて GK というポジションは大きな責任と同じぐらい大きな誇りがあるポジションだという事を伝えていきたいです。唯一自陣のペナルティエリアで手を

扱うことが許されゴール前で味方を救うプレーができ、唯一11人の中で違う色のユニフォームの着用をすることができ、唯一道具の着用が認められているポジションです。沢山の唯一が付く GK というポジションを同じ GK の仲間と共に取り組む事でエネルギーを共有し、誇りを持ってもらい、一人一人が成長したと実感してもらえる環境を作っていきたいです。渋谷という大都心で取り組ませて頂いているので、本当に沢山の選手が集まっています。今以上に沢山の皆さんに参加していただけるようにこのクリニックを積極的に発信していきます。私自身、GK というポジションには魅力があるのだと、選手のみならず保護者の皆さん、このクリニックに携わる全ての方々に実感してもらう為に一生懸命に取り組んで参ります。

高校2年生 GK 教室・指導者研修参加（6か月）

・指導者としての活動のメリット

自分から一方的に教えるのではなくプレーヤーから気付かされることやエネルギーをいただけることが最大のメリットです。また人脈が広がります。加えて、元気に来たプレーヤーをさらに元気にして帰したり、「また来たい」と言ってくれる小学生を見るとより人の役に立てたというやりがいを感じられます。

・将来的に自分の何に役に立つのか

クリニックでは指導者が初対面のプレーヤーに対しても話しかけることで似たようなみんな初対面の状況でも誰にでも話せるようになり、成功体験となり、自分への自信が湧き、結果的に人間としてさらに大きくなることが出来ます。これにより多角的な視点で物事を捉えられます。

・今後どのように展開したいか

クリニックに来てくれる人を増やして GK ではなくサッカー選手を増やし、もっとサッカーの楽しさ、面白さを色々な人に伝えていきたいです。澤村コミュニティリーダーから4月頃お話を頂いた際、自分を成長させる機会であると感じました。また自分から飛び込まない限りは以前（青学参加前）のような環境を打破することはできないと感じ挑戦しました。他にも選手としてクリニックをやることと選手兼スタッフをすることで一つのトレーニングに対する見方も変化すると思ったので参加させて頂きました。クリニックで学んだことを後輩に伝えることで自チームに少しでも何か還元できるとも考えました。

3-2-3 グラスルーツサッカー・スキルアップクラス（毎週月曜日 年間約28回開催）

時間：18:45～20:15

会場：短大スポーツホール（体育館フロア）、青山学院高中部グラウンド（人工芝）

大学総合型地域スポーツクラブを用いたアクティブラーニングプログラムに関する考察

対象：小学校5年生以上。年齢上限制限なし。

外部指導者：1 名

運営担当：2名

活動内容：

同地域内にもサッカーのクラブ、教室は多数開催されている。特に対象の年齢層、性別は限定せずに参加者を募集し、実施している。各年代において年齢層の異なるプレーヤーと活動を共にすることは学びと気づきが多い。「教え・教えられ」という体験を繰り返すことは積極的な取り組みへの動機に繋がることと考え、敢えて対象年齢や性別、技能レベルを限定せずに開催している。若年層の子供たちが自ら見て学ぶ姿勢を養成していく、かつては日常であった身近なコミュニティにおける「大人の背中を見て学び自ら育つ」環境をサッカーを通じて創出することを目的としている。

[illegible]

募集要項

※2023年前期実績					
日程		外部コーチ	運営担当	運営担当	参加者
1	4月24日	○	○	X	7
2	5月1日	X	○	X	7
3	5月8日	○	○	X	7
4	5月15日	○	○	○	7
5	5月22日	X	○	○	10
6	5月29日	○	○	X	6
7	6月5日	○	○	X	8
8	6月12日	○	○	X	6
9	6月19日	○	○	X	7
10	6月26日	○	○	○	9
11	7月3日	X	○	○	6
12	7月10日	○	○	X	7
13	7月17日	○	○	X	5
14	7月24日	○	○	X	25
15	7月31日	○	○	X	20
	合計	12	15	4	137

2023 年前期実績



活動の様子

研修参加者に対しての記述式調査は2023年9月にインターネットメディアを利用して発送、回収を実施した。企画・運営者、指導者として参加した2名より回答があった。

- ・あなたにとってスポーツ活動の意義
 - ・あなたの関わったオール青山スポーツコミュニティの活動で感じたこと
 - ・その他の感想、意見など
-

①大学4年生 ※グラスルーツサッカークラス参加3回、サッカー大会参加2回

・率直に自分よりもボールタッチが上手な子が多くて驚いた。自分自身ボールを扱う技術自体にあまり自信がある訳ではなかったがそれでも自分よりも1周り2周りも年下のプレイヤーがコーンを滑らかに抜けていく様子は目を見張るものがあった。また、指導員やコーチとして小学生～中学生にサッカーを指導している人間として、彼ら彼女らのゲーム内で見られる発想力豊かなプレーは非常に刺激を受けるものがあり、学ぶものが多かった。そしてボールタッチや発想力が優秀なプレイヤーが多い中で、ゲーム形式では自分が優位に立つことができるのは何故なのか。フィジカル面以外の何が要因で自分が優位になるのかを考えるきっかけとなった。学ぶべきことがテクニク以外にも多くあり、非常に良い勉強になったと考える。

②大学4年生 G大学 ※グラスルーツサッカークラス参加3回、サッカー大会参加2回

・イベントを通して、小学生の方や中学生の方、そして、自分よりも年配の方と一緒にサッカーをする機会が得られたことにより、自分の視野が広がったように思います。年配の方だと、様々な経歴を持っている方がいて、イベントに参加していなければ、出会うことがなかった方たちと交流をすることができて、とても有意義な時間になりました。

3-2-4 第1回青学野球部ベースボール教室（年間不定期1回開催）

日程：2023年8月1日（月）9:00～11:00

会場：相模原キャンパスベースボールスタジアム

協力：体育会硬式野球部

参加者：小学校5、6年生 男子38名（相模原市内22名、町田市4名、東京都内12名）

指導：選手40名、監督・コーチ2名

運営：マネジャー4名、学生課職員、社会情報学部関連科目履修学生

活動内容：

今年度初頭に開催された WBC（ワールドクラシックベースボール）にて日本代表が優勝を果たした。中心選手として青学大硬式野球部 OB 吉田選手の活躍があり、本学硬式野球部もその活躍に刺激されるようにして東都大学リーグ春・秋制覇、全日本大学野球優勝と輝かしい成績を残した。相模原キャンパス近隣在住の方々、学院の児童たちの中で野球に興味を持った少年少女も多かったことと感じられる。この機会に相模原キャンパスやそこで学び練習に励む学生たちへの交流を通じて、双方が理解し良い影響を与え合えるスポーツコミュニティの創出にまたとない機会であった。3月に実施した相模原における初の事業として「相模原キッズスポーツチャレンジ」には、クラブ紹介ブースへ公式戦ユニフォーム展示、リーグ戦スケジュール紹介、グッズプレゼントなどの協力を頂いた。当日のキャンパスツアーでは、雨天練習所場を見学したツアー参加者に安藤監督よりコメントを頂く機会を得るなど

青学スタジアムで選手と一緒にプレーしよう！
小学生 5・6年生の経験者対象スキルアップクラスです

青学野球部ベースボール教室

主催・企画：青山学院大学 社会連携部
協力：青山学院大学体育会硬式野球部
期日：2023年 8月1日（火）9:00～11:00 ※定員30名先着順
対象：小学生5年生・6年生 40名（往復送迎あり、参加無料、要申し込み）
※参加費2,000円（5年生・6年生で、先着10名まで参加費無料）
※参加費は当日会場にて現金で徴収します。
会場：青山学院大学 相模原キャンパス ベースボールスタジアム
※雨天時は室内会場にて実施予定
※バス22台、バスは相模原駅南口駅西口5-10-1 相模原キャンパス内
3分乗降所「相模原駅」より徒歩約7分、最寄り駅は相模原駅です。
参加申込み：オール青山スポーツコミュニティWEBSITE
all-aoyama-sports-community.com
※申し込みはポスターから

連絡事項：
・野球用具をお持ちの方はご持参ください。
・ソフトボールグローブも使用します。
・水の補給用の水筒・タオルを持参して下さい。
・スタジアムの「見物どき」を見えて来て下さい。
・イベント中の安全に気をつけては、応急処置の対応をお願いします。
・雨天の場合は参加費を返金します。
・スズーパースーツ等は土着者が利用します。
・イベント中に撮影した写真は22日（土）頃に、参加者全員にメールで送付いたします。
・相模原の地図のちよとご参加いたします。
運営・連絡：相模原キャンパスアリーナ地下鉄線042-759-6014
写真：オール青山スポーツコミュニティ・プロジェクト

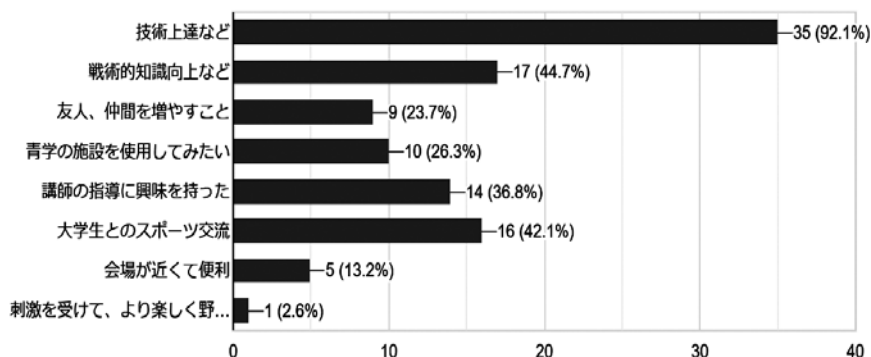
募集要項



活動の様子

このイベントに期待することは？

38件の回答



学年	居住地域	イベント内容について	活動環境について	指導者、運営者、スタッフについて	その他
小学5年生	神奈川県	とても楽しかったです！次は是非、低学年も機会にしたいなと思います。	広々としたグラウンドで、ネットがたくさんあったので楽しかったです。	親切でした	夕食をさせていただき、安く美味しく頂く機会に感謝しました！
小学5年生	東京都区内	青学野球部ベースボール教室に参加しました。とても楽しかったです。色々な大学生のお兄さんたちが優しく教えてくれました。いつもより難しい外野フライのノックをタイミングキップで捕れたのが嬉しかったです。	グラウンドは広くて、フェンスにAOYAMAと書いてあって、青山学院のグラウンドという感じがして、気持ちよかったです。こういう環境があるとたくさん練習ができると思いました。	大学生のお兄さんたちが、お友達みたいに接してくれて、楽しく野球をすることができました。特に、中島さん、中田さん、田中さんにはバッチングや守備を詳しく教えてもらえて嬉しかったです。	また参加したいです！秋の大会がはばってください！日本代表の試合も絶対に観ます！
小学5年生	東京都区内	体験会程の内容かと思いましたが、本格的な指導を頂き大変満足しております。		甲子園で活躍した選手に指導頂き、子供も喜んでおります。	
小学6年生	東京都区内	急速当日にも関わらず弟も野球教室に飛び入り参加させていただきありがとうございました。		受付の方からマネージャーさんも皆親切で良かったです。バッチングを指導して下さり帰宅後も教わった事を復習していました。	最後の集合写真もGoogleフォトで見れると嬉しいです。
小学6年生	神奈川県	とても、楽しかった。分かりやすく指導してくれました。	キレイ	良かったです	
小学6年生	東京都区内	最高の機会をいただき感謝いたします。過去に慶應高校との練習会にも参加したことがありますが、ひやうがいわくその時は交流メイン（高校生のお兄さんの、声だけの練習？）のようでした。今回の本場には子供に子供練習や技術習得に特化しているお兄さん達と楽しく練習をさせてくださり素晴らしいと感じました。ひやうがは楽しかった楽しかったもったいなかったとずっと話していました。	申し分ありません。親の観戦スペースもありありがたかったです。東京在住には少し遠いですが、それを上回る素晴らしい機会と感じました。	小さいお子さんには水分補給のお気遣いをされたり、また写真もたくさん撮っていただきありがたかったです。	何よりやはり現代の子は身体を動かす機会が不足しています。都市内にはキャッチボールできる公園はほとんどないですし、公立であれば三年生から塾通いが一般的です。大人がある程度お膳立てをしないと身体を動かすことが難しい時代です。また、今回のような程度レベルセット（経験者、小五、小六に限定）するのでも大変良い案だと思います。逆に参加できないものも今後あるかと思いますが、教える側の難しさや母数を考慮すれば色々な参加要件があっても致し方ないと考えます。
小学5年生	神奈川県	高校野球を家族でテレビ観戦しているのでも、知っている選手がたくさんいた！と、大喜びでした。	素晴らしいグラウンドでした。さすが大学日本一になる野球部だと思いました。	子どものちよつとしくだらしない質問にも楽しく答えてくれたようで、とにかく楽しかったと言っていました。前日にいただいたメールが、もう少し早く届いたらもっと良かったと思います。	
小学6年生	東京都区内	捕手の青木選手が丁寧に具体的にキャッチの動きを教えてくださいました。習ったことをすぐに実践したいと子供が申し出ておりました。憧れの選手と接するのができ、感動しておりました。お忙しい中、子供達のために貴重な時間を割いてくださり、心より感謝申し上げます。	大学の素晴らしい施設で開催してくださり、大変ありがたいです。	正門にも案内の方々がいてくださり、助かりました。皆様親切に対応してくださいました。	
小学6年生	神奈川県	投げ方やバッチングのコツを具体的に教えてもらえて楽しかった。	グラウンドは綺麗でとても良かった。	当日のスタッフは人数も多く、参加者1人1人についてくれてとても良かった。前日までの案内メールをもう少し早く、かつ細かく教えていただけたらとても良かった。	楽しく参加させてもらいました。ありがとうございました。機会があればぜひまた参加したいと思います！
小学5年生	神奈川県	とても楽しく参加させてもらえ、また行きたいと言っております。	グラウンドも広く、良い環境です。	優しく教えて頂きました。	平日に野球の練習に行きたいと子供が言っておりました。
小学5年生	神奈川県	野球 すごく楽しかったし刺激になりました。	とてもよかったです。	とてもよかったです。	もう少し早めに詳細がわかったら、いろいろ対応しやすかったなと思いました。でも、なかなかこのような機会がないので、いい体験をさせていただきました。
小学5年生	神奈川県	指導してくれる大学生が沢山いて、楽しかった。色々教えてくれたためになった。このことでした。	大学内ということと、普段とは違う雰囲気も感じられて良いと思う。特別感がある。	とても、優しく熱心に教えてくれた。	相模原スポーツ協会を通して、所属チーム代表に、締め切り間近にお知らせが来た。7/25頃。参加したいけど、調整がつかず、申し込めない人もいた。募集開始直後から申し込めるように、お知らせをいただきたい。
小学6年生	東京都区内	とても楽しかった。1日やりたかった。また野球を教えてもらいたい。	遠いけど、広くてきれい	楽しかった。わかりやすかった。	
小学5年生	東京都区内	楽しかった、よく学ぶことができた。	ブルベンで投げることができてうれしかった	わかりやすく、優しく教えていただいた。	とても良い経験になりました。ありがとうございました。
小学6年生	東京都区内	東都のトップ選手たちに野球をたくさん教えていただき、とても喜んでおりました。ありがとうございました。	設備の整ったグラウンドで練習させていただき、ふだん出来ない体験をすることが出来ました。	スタッフ皆様、丁寧なご対応を誠にありがとうございました。	
	東京都区内	現役の学生と一緒にできたことはとても貴重な経験だったと思います。	大変良かったです。	とても親切で良かったです。	半年に一回くらい開催してほしいです。最後に撮影していた集合写真をGoogleフォトで共有してください。
小学5年生	神奈川県	イベントに参加させていただいて、良い刺激を受け、前よりも野球が好きになったようです。	とても良いグラウンドでした。	熱中症予防のための水分補給や休憩の声かけがあり、安心して子供をお任せすることができました。みなさん親切な対応で、気持ち良くイベントに参加させていただくことができました。	親子共々楽しい思い出ができました。たくさん写真もありありがとうございました。
小学5年生	神奈川県	教えてくれる大学生が沢山いて、ぼぼマンツーマンでついてくれたのでとても良かったです。2時間では短い時間でしたので、4時間くらいあると嬉しいです。今回初めて開催されることを知りましたが、もう少し早く情報が知れるといいので、参加した人にもまた案内メールを送りたいなと思います。野球やかけこ、運動等のイベントには今後も参加したいです。今回は5.6年生対象でしたが、3年の娘も連れて行っていたので、一緒に出来る楽しかったと思います。次回、3.4年生も対象の野球教室があると嬉しいです。	グラウンドはとても良かったです。	一緒にいた娘にも、飲物を下さったり声をかけていただいて、対応が行き届いてとても良かったです。	

プロジェクトへの理解、協力を選手の皆さんからも頂いている。

ベースボール教室当日は企画内容を全て硬式野球部に一任し、周辺の運営は事務職員と硬式野球部マネジャー、社会情報学部社会連携科目履修生有志が担当した。教室の実質的な進行、指導は選手が全てをオーガナイズ、実践し子供たちへの声掛け、実技指導、誘導案内など明るく、楽しい雰囲気の中で進んでいた。特に参加者と同数以上の硬式野球部選手が共に走り、プレーしたことは参加した子供たち保護者の皆さんにも強く印象に残る素晴らしい体験となったようである。

3-2-5 小学生対象マルチスポーツ体験クラス（2023年6、7月トライアル3回開催）

日程：2023年6月27日（火）、7月4日（火）、7月11日（火）、※中止7月18日（火）

16:00～17:30

会場：青山キャンパス短大スポーツホール（体育館フロア）

協力：体育会ボクシング部、体育会女子ラクロス部、経営学部スポーツマネジメントゼミ

対象：小学生

参加者：小学校3年生～6年生 9名

外部指導者：1名

運営担当：経営学部スポーツマネジメント担当教員、教育人間科学部教員、

社会情報学部関連科目履修学生、経営学部スポーツマネジメントゼミ学生

活動内容：

過去3回開催した「キッズスポーツチャレンジ」の発展形イベントとして新たに実施した。「スポーツチャレンジ」で体験した様々なスポーツを一過性で終わることなく、定期的に多種目スポーツを継続実施する環境を設定することを目的とした企画である。

夏季休業前の初等部の協力を得てスタートアップ企画として実施した。4週にわたって実施予定であったが会場の暑熱環境が実施危険な日程が最終日にあり、3回の実施に留まった。参加した児童は各種目に熱心に取り組み指導担当した体育会指導者や学生、スポーツ関連科目教員も時間を超過して児童のエネルギー溢れる活動に対応した。ランニング体験では走り方の基本的なトレーニングをした後に、児童たちからのリクエストから予定外の企画「鬼ごっこ」が誕生するほど熱心な取り組みであった。また、初めての試みである社交ダンス体験は児童にとっては難しいプログラムであったようだ。企画・運営を担当し自らダンスの指導を実践した経営学部スポーツマネジメントゼミ学生からは「社交ダンスの競技性、楽しさなどを伝えたいものの児童たちが自ら進んで踊りたいと好奇心を抱かせるような導入の工夫が必要であった」と課題を報告してくれた。その後、キッズチャレンジにおいては見事に参加者たちがペアダンスを体験し、楽しんでくれる姿を見れたことはこのプログラムの有用性

を示唆する経験となった。

青山学院大学「これからの社会を担う若者をスポーツ経験者育成システム構築（CAプロジェクト）」
オール青山 マルチスポーツ体験クラス

小中学生は10歳未満の児童は入場を禁止する場合があります。
フットサル、バドミントン、バレーボール、バスケ、バドミントン、バドミントンなど
（※入場料は別途必要となります）

主催：青山学院大学 CAプロジェクト（CAプロジェクト）
（※青山学院大学CAプロジェクト事務局）

会場：青山学院大学 体育館（〒107-8386 東京都港区赤坂）
（※青山学院大学CAプロジェクト事務局）

対象：2023年
第1回 6月27日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン
第2回 7月11日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン
第3回 7月11日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン
第4回 7月11日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン

申し込みはコチラから
（※申し込みはコチラから）

申し込み先：オール青山スポーツ・コミュニティ（CAプロジェクト）
all-aoyama-sports-community.com

会場：青山学院大学 体育館（〒107-8386 東京都港区赤坂）
（※青山学院大学CAプロジェクト事務局）

第1回 6月27日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン
第2回 7月11日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン
第3回 7月11日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン
第4回 7月11日（水）バドミントン、バドミントン、バドミントン

申し込みはコチラから
（※申し込みはコチラから）

申し込み先：オール青山スポーツ・コミュニティ（CAプロジェクト）
all-aoyama-sports-community.com

会場：青山学院大学 体育館（〒107-8386 東京都港区赤坂）
（※青山学院大学CAプロジェクト事務局）



募集要項

活動の様子

3-2-6 小学生対象スポーツサポート企画（不定期開催 相模原及び青山）

「初等部ランニングクラブ訪問」（2022年9月）

「相模原市内小学校陸上競技指導サポート」（2023年9月）

協力：体育会陸上競技部

経営学部スポーツマネジメント演習（総合型地域スポーツクラブ実習）

対象：本学初等部ランニングクラブ、相模原市大野北小学校



初等部ランニングクラブサポート



相模原大野北小学校サポート

3-3 女性のスポーツ機会創出／女性活躍社会をスポーツで達成する施策／子育て世代におけるスポーツとの関わり方

年齢と共に様々な社会活動によりスポーツから遠ざかる傾向のある女性に対して、各年代で心身の健康維持増進を目的としたスポーツ活動を提供することを目的とする。特にフットサルの実践はインドアにて接触プレーを制限した競技をチーム競技として実践することか

ら、コミュニケーション機会も増加し目的達成に有用な種目であるとする。

昨年から継続的に実施している「JFA なでしこひろば in 青山学院」に加えて、相模原キャンパスでの活動を開始することとなった。契機となったのは2023年5月に開催された「WE ACTION DAY ノジマステラ×青山学院大学ワークショップ」で抽出された「女子スポーツの未来を考える」様々な課題であった。

3-3-1 JFA なでしこひろば in 青山学院 毎週火曜日 年間30回開催

時間：19:00～20:30

会場：短大スポーツホール（体育館フロア）

外部指導者：1名

運営担当：1名

運営学生：1名

活動内容：

女性スポーツの普及（機会提供）、子育て世代、高齢者のスポーツ参加による健康維持・体力増進を目的として開催した事業には、学院関係者、近隣の一般参加者が加わりフットサルを楽しんだ。継続期間中には、その絆が広がり仕事帰りの主婦、親子、教職員フットサル部、OGの仲間、小学校の友達同士と参加者が増えていった。今後継続を望む声も多数寄せられ時間帯、会場は継続しながらの「子育て世代」対象事業と、高齢者及び小中学生対象としたより早い時間帯での開催とコミュニティ内の周知を実践しながら、より多くの女性がスポーツに気軽に参画する機会を創出することが課題となる。2023年度も継続的に実施している。

NADESHIKO FRIENDS SQUARE
EVENT INFORMATION

青山学院大学CAプロジェクト事業

**JFA なでしこひろば
in 青山学院**

期 間 2023年4月25日、5月2日、9日、16日、23日
5月30日、6月6日、13日、20日、27日
7月4日、11日、18日（最終開催日）

実施日 毎週火曜日 19:00～20:30

場 所 青山学院大学 短大体育館スポーツホール
（正門のアーチが入口です。正面のアーチが入口となります。）

開催内容
フットサルの基礎技術習得とゲームを楽しむことを主体に活動します。初心者から上級者まで技術レベルは問いません。

参加対象	人数	費用
小学生以上 （年齢上乗なし）	20名	500円

主 催 オール青山スポーツコミュニティ（青山学院大学CA8750/179）

（お申込み・お問合せ）青山学院大学体育研究室
直通 03-3403-1470（室助）

その他特記事項
お申し込みは当日18:00までに、
各回のQRコードまたは
オール青山スポーツコミュニティWEBサイトにて！
URL: all-aoyama-sports-community.com

募集要項



活動の様子

※2023年前期実績				
		外部指導者	運営	参加者
1	4月25日	○	○	8
2	5月9日	×	○	9
3	5月16日	○	○	4
4	5月23日	○	○	1
5	5月30日	○	○	5
6	6月6日	○	○	9
7	6月13日	○	○	12
8	6月20日	○	○	4
9	6月27日	○	○	8
10	7月4日	○	○	7
11	7月11日	○	○	8
12	7月18日	○	○	9
		11回	12回	84名

性別	年齢	居住地域	イベント内容について	活動環境について	指導者、運営者、スタッフについて	その他
女性	50代	東京都区内	フットサルの継続的なリーグ戦があれば参加してみたい。参加できるかはスケジュール調整ですが継続的なゲームをしたい	とても良い環境でイベント参加させて頂いています	素晴らしい	週末の方が気分的に参加しやすい。個人の感想
女性	30代	東京都区内	楽しい	とても良い	とても良い	いつもありがとうございます。
女性	0-15歳	東京都区内	バスケットボールもやりたい	体育館たですがとても良い	来夢コーチはとても親しみがあり、親切で大変満足です。 宮崎先生も、とても優しく、いろいろな技術も教えてくれて楽しいです。	できれば、春休みや夏休みの間も開催してもらえると嬉しいです。
女性	40代	東京都区内	平日に身体を動かす機会がありすぎありがたいのと、コーチ陣の指導がとてもわかりやすいです。大人になってから始めたサッカーでしたが、こんなに楽しさを感じる事ができ本当に参加できて良かったです。	体育館での開催の為、雨天時にも身体を動かせること、体育館のハーフコートでしっかりコミュニケーションをとりながらできる環境に感謝しています。	毎回楽しませてくれる指導方法と、褒めてくれる宮崎先生の指導方法でスポーツの楽しさを更に教えていただいています。	今後も是非継続していただきたいです！！
女性	16-19歳	東京都区内		グラウンドが広くとても良い環境でした	とても分かりやすく教えて貰えました	また参加したいです！

3-3-2 WE アクションサポート ワークショップ

ノジマステラ神奈川相模原×青山学院大学スポーツ健康イノベーションコンソーシアム

日程：2023年5月

会場：相模原キャンパス B 棟ビューラウンジ

参加者：WE リーグノジマステラ神奈川相模原所属選 23 名 スタッフ数名

本学大学生 10 名、近隣にお住いの皆さん 7 名、本学教職員 10 名

活動内容：

ノジマステラ神奈川相模原は青山学院大学スポーツ健康コンソーシアムの会員として、5月3日（水）青山学院大学 相模原キャンパスにて、WE ACTION DAY「ノジマステラ×青山学院大学 ワークショップ」として実施された。青山学院大学の学生や近隣地域にお住まいの一般参加者、大学関係者など総勢 27 名と選手 23 名がワークショップを行った。

(以下ノジマステラ神奈川相模原公式サイトから引用)

今回のイベントは青山学院大学と連携し、「女子サッカーで相模原を盛り上げる！～女子サッカーができること、そのために必要なことを考えよう～」というテーマのもと、『女子はなぜスポーツから遠ざかるのか』についてデータをもとに現状に対する理解を深め、8グループに分かれてワークを進めて行きました。

最初のワークでは「なぜスポーツを続けているのか。なぜやめたのか。」についてそれぞれの立場から意見を出し合いました。続けている理由では「楽しい」「体を動かすのが好き」「家族の楽しみだから」など、なぜやめたのかについては「他にやりたいことができた」「環境がない」「日焼けをしたくない」など、どちらの問いに対しても他にも様々な意見が出ました。続いてのワークでは、1つ目のワークで出た様々な意見をもとに課題解決のために「女子サッカーができることは何か？」について話し合い、模造紙にまとめて行きました。

最後はまとめた内容についてグループごとに発表を行い、「自分たちがロールモデルとなるように活動していくこと」や「認知度を上げるために必要なこと」、「スポーツができる環境を作り出すこと」などについての多くの考えやアイデアが出た、大変活発な発表の場となりました。



活動の様子



プレゼンの様子

ワークショップ内での発言には、具体的に女子が小学校から中学校に進学する際にサッカーから離れる要因として下記のような事例をあげている。「スポーツが嫌い」といったそもそも論から、「動くことが面倒」、「時間がない」、「日焼けが嫌い」、「容姿に対する変化の問題（足が太くなるなど）」、「環境が無い」などの要因が指摘された。そのうえで「なぜスポーツをしなくてはならない？（社会的必要性）」、「なぜスポーツを推奨する？（教育分野から）」、「なぜスポーツをしたい？（実施者の立場から）」など様々な視点からスポーツの必要性、有用性を検討することとした。上記要因の中から、外部要因として課題を解決できるものからアプローチを検討した。その結果、「日焼けが嫌い」、「環境が無い」、「時間がない」

などの課題に対応する施策として次項のイベントをトライアルとして4回シリーズで実施することとなった。「日焼けをしないで、サッカーを楽しめるインドア開催イベント」、「相模原キャンパス内の施設を利用する」、「平日の夕方の時間帯を利用する」ことで実施可能な「小中学生対象 相模原女子フットサル体験」である。

さらに日頃の教室、トレーニングセッションの成果を発揮するべく女性チームによるサッカー大会の開催を実施した。昨年末にはFIFA ワールドカップカーター大会を記念して「第1回オール青山サッカーフェス」を開催したが、本年は7月にFIFA 女子ワールドカップ AU/NZ2023 が開催され「なでしこ JAPAN」の活躍に注目が集まる中、「第1回オール青山レディースサッカーフェス」を開催し、日頃からコミュニティ内でサッカーを楽しむ「JFA なでしこひろば in 青山学院」参加者や大学授業にてサッカーを履修する女性たち参加し、技を競い、女子サッカーコミュニティを構築した。

3-3-3 小中学生対象 相模原女子フットサル体験 2023年6、7月トライアル4回開催

日程：2023年6月30日（金）、7月7日（金）、7月14日（金）、7月21日（金）

時間：17:00～18:30

会場：相模原キャンパスアリーナ

指導者：外部指導者1名（女性）

運営：2名

運営協力：社会情報学部関連科目履修生

活動内容：

※2023年前期実績				
	1	2	3	4
	6月30日	7月7日	7月14日	7月21日
外部コーチ	○	○	○	○
運営担当	○	○	○	○
運営担当	○	○	○	○
参加者	7名	7名	7名	7名

大学総合型地域スポーツクラブを用いたアクティブラーニングプログラムに関する考察

西山学院大学「これからの社会を担う新たなスポーツ施設を創る大学体験（2023年度）」
2023年度 女子フットサル体験クラス

※フットサルは2023年10月20日（日）実施。当日は西山学院大学体育館にて実施。フットサルを体験し、スポーツでつながる仲間を交わしましょう！

対象：西山学院大学（21地域連携ハコ・ラボ）3-3
（※西山学院大学は2023年度「2023年度」）

講師：宮崎県立大学（前川 美穂 先生）
U-18フットサル女子日本代表
2022年 2022年フットサル女子日本代表
※U-18代表の現役選手がフットサルを学ぶ学生が講師を務めます！

時間：17:00～18:30

期日：2023年
期日：6月20日（金）
期日：7月7日（金）
期日：7月14日（金）
期日：7月21日（金）

会場：西山学院大学 新館南キャンパス A棟アリーナフロア
〒712-0218 岡山県岡山市南区西山学院1-10-1 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
※会場は西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロアです。

参加費：西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
学生料金 300円
社会人料金 500円

申込方法：西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア

申込期間：2023年5月10日（水）～5月19日（金）
申込方法：西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア

申込先：西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア

申込先：西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア
西山学院大学 新館南キャンパスA棟アリーナフロア

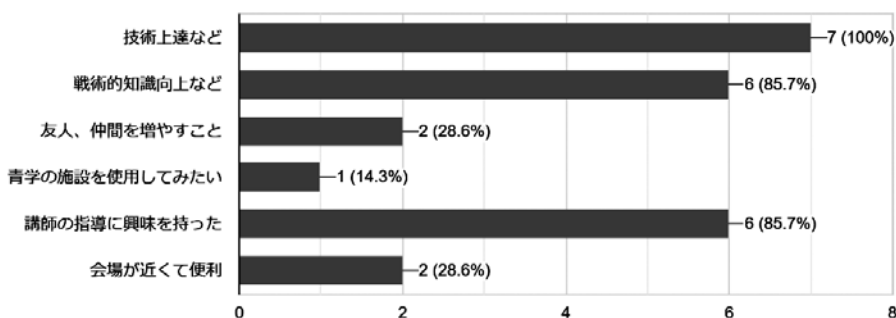


募集要項

活動の様子

このイベントに期待することは？

7件の回答



性別	年齢	居住地域	イベント内容について	活動環境について	指導者、運営者、スタッフについて	その他
女性	0-15歳	相模原市	毎回とても楽しく参加させて頂き、ありがとうございます。 普段やっているサッカーとはまた違い、足技などとても勉強になりました。 女子サッカーなど、また機会があれば参加させて頂きたいと思います。	とても綺麗な体育館で感動しました。	毎回自由奔放な子供達にとっても親切に優しく頂きありがとうございます。	元プロの選手と一緒にプレーできるなんて貴重な機会をありがとうございます！
女性	0-15歳	相模原市	とにかく楽しかったです。 またサッカーに関わるイベントがあれば是非参加したいです。	最高でした！	可愛いコーチ、優しいコーチに子供達は心奪われ金曜日が待ち遠しいかったです。 とても良い経験ができました。	
女性	0-15歳	藤沢市	いつも観ることばかりのフットサルを教えてもらったことで、ますます観るのが楽しくなり、「あっ今ビサダーやった、いまのカーテンかな」とか言っていました。これからは自分でも観りたいと思ってもらえたらいいなと思っています。参加して良かったです。	とてもきれいな施設で、この季節に天候に関係なく空調設備がある快適な中で活動できたのはとても良かったです。	全4回あり戦術まで教えていただきとても楽しく過ごさせていただきました。 最初は麻衣コーチに会いたくて頑張っ行き、2回目からは自分もボールが蹴れる、フットサルが出来るのが楽しくて、一生懸命通っていました。このような機会をくださった事に感謝しています。	乗り物が苦手、同世代の子とのコミュニケーションが苦手、1回だけでも無理と言われると思っていたのに、毎回1時間近くかけて通うことが出来ました。 自分だけでも下手でみんなに迷惑をかけていると思っていたながらも、参加しやすい環境にしてくださりありがとうございました。 一緒にボールを蹴ることで、すんなりみんなの仲に入って楽しく参加出来ました。 スポーツって素晴らしいなと思いました。 この4回で娘は色々な面でとても成長しました。素敵な機会をくださりありがとうございました。

3-3-4 オール青山レディースサッカーフェス 年間1回開催

※参加者出場制限なしの大会と同時開催

日程：2023年7月30日（日）

会場：青山学院高中部グラウンド

参加チーム：女子3チーム 28名（中学生1名、高校生1名、大学生15名、社会人11名）



協賛団体からの各賞授与



協賛団体各賞紹介する運営協力の皆さん

3-4 高齢者の心身の健康／高齢者の健康寿命延伸を目的とした施策

少子高齢化、核家族化は都市部においても深刻な社会課題である。加えて高齢者は離職してから日常の活動範囲の減退に比例して人とのつながりが極端に少なくなる傾向が認められる。健康寿命の延伸、心身の健康を維持するためにも同年代のコミュニティの枠を超えて活動が可能なスポーツを通したコミュニティへの参画が有用であろう。特に複数種目が同時開催されるスポーツ施設あるいは、幼稚園から大学までキャンパス内に備えた本学のような施設は年代を超えた新たな刺激を受容することで、このような目標を達成することが可能である。従って本学のような大学キャンパスを社会連携事業に提供し、適切なスポーツを通した交流は高齢者の健康維持、増進に大いに有用であることが推察される。

3-4-1 【シニアコミュニティ】「第2回ウォーキングフットボール体験」年間2回

日程：2023年7月22日（土）17:00～18:30

会場：青山キャンパス高中部グラウンド

協力：MC 角田寛和さん ウォーキングフットボールチーム「アルクオーレ」

日本ウォーキングフットボール連盟

参加者：15名

男性8名：20代1名、50代3名、60代2名、70代2名・

女性7名：30代1名、40代1名、50代2名、60代3名

指導：外部指導者1名

3-4-2 相模原スポーツ健康コミュニティ 2023年9月より毎月2回開催

会場：相模原キャンパスアリーナフロア

協力：体育会バドミントン部

運営担当：2名

参加者：第1回12名、第2回15名 ※いずれも近隣在住ご家族、小学校教員ほか

やってみよう！見てみよう！エンジョイ・スポーツ！
青山学院大学 シニア・ジュニア対象
相模原スポーツ健康コミュニティ

開催種目
バドミントン フットサル ウォーキングフットサル ほか

期日：第3回 11月10日(金) 17:00～19:00
第4回 17日(金) 17:00～19:00

募集：近隣にお住いのシニア・ジュニアでスポーツを楽しみたい方。
初心者でも上級者でもご参加下さい。
※参加無料・要申し込み
<https://forms.gle/KZTkmfcq7pLLa83A>

活動内容：
キャンパス内のアリーナフロアを使用して数回形式でフットサル、
ウォーキングフットボール、バドミントンの各種目を実施します。
各施設のエアサバート施設がある場合は、大学体育会所属のスタッフが
コミュニティリーダーとして活動をサポートします。

会場：青山学院大学 相模原キャンパス
A棟アリーナ メインフロア
〒252-5258
相模原市緑区相模原5-10-1
相模原キャンパス内

※34歳未満「実習生」より徒歩約7分
※飲食店での利用はご遠慮ください。
※雨天等で活動の場がなくなり
入場し難い場合はご参加下さい。

主 催：青山学院大学 スポーツ健康イノベーション・コンソーシアム
協 賛：青山学院大学体育会
協賛企業：
・本施設も使用しますので利用スケジュールをご確認ください。
・本施設は地下鉄相模原線と利用が便利です。相模原駅西口から徒歩約10分です。
・イベント中の観覧席に限りは2階席利用が便利です。観覧席は事前に申し込みが必要です。
相模原駅、相模原キャンパスアリーナ地下鉄相模原線 042-759-4014 相模原線：20分

募集要項



活動の様子

3-4-3 第2回オール青山サッカーフェス 年間2回開催

日程：2023年7月30日（日）9:00～12:30

会場：青山キャンパス高中部グラウンド

企画運営：経営学部スポーツマネジメントゼミ

協力：加茂商事、アクオーレ、ユナイテッドスポーツ

ゲスト：町田ゼルビア鈴木準弥選手

参加者：100名（男子8チーム、女子3チーム）

運営協力：高等部サッカー部、社会情報学部関連科目履修生

活動内容：

『第2回オール青山サッカーフェス』

主催：青山キャンパス高中部サッカー部
協賛：経営学部スポーツマネジメントゼミ
協力：加茂商事、アクオーレ、ユナイテッドスポーツ

日程：7月30日（日）9:00～12:00 【雨天決行】

会場：青山キャンパス高中部グラウンド

参加費：無料
観覧料：500円
観覧券：500円
観覧券：500円

参加チーム：青山キャンパス高中部サッカー部、経営学部スポーツマネジメントゼミ、加茂商事、アクオーレ、ユナイテッドスポーツ、町田ゼルビア鈴木準弥選手

募集要項

8:30 受付、エントリー手続き
（前日7時～当日5時～9時7分、ビュースタンド、グループ、印刷用紙）

9:00 オープニング
～チーム紹介、主催者あいさつ～終了後、W-UP～高中部グラウンド

kick off ビッチA 対戦：ヒューズ
① 9:20 チームライム vs 学園院本場クラス+青年女子
② 9:40 玉川レックス vs 川崎千景
③ 10:00 学園院女子フットサル部 vs 学園院本場クラス+青年女子
④ 10:20 69部員等部 vs SONJUN
⑤ 10:40 チームライム vs 学園院女子フットサル部
⑥ 11:00 TAKANAWA vs 69部員等部 ※インターバル10分
⑦ 11:30 学園院フットサル部 vs 川崎千景
⑧ 11:50 レディース選抜マッチ
⑨ 12:10 決 勝

ビッチB 対戦：ヒューズ
① 9:20 TAKANAWA vs SONJUN
② 9:40 69部員等部 vs グラスルーツ
③ 10:00 Roys vs 学園院フットサル部
④ 10:20 TAKANAWA vs グラスルーツ
⑤ 10:40 玉川レックス vs 学園院フットサル部
⑥ 11:00 川崎千景 vs Roys ※インターバル10分
⑦ 11:30 玉川レックス vs Roys
⑧ 11:50 SONJUN vs グラスルーツ
⑨ 12:10 3位決定戦

12:30 クロージング
・結果発表、表彰、記念撮影：高中部グラウンド

運営要項



集合写真



運営サポートの皆さん

性別	年齢	居住地域	イベント内容について	活動環境について	指導者、運営者、スタッフについて	その他
女性	11-15歳	千葉県	今までサッカーをやったことがなく始める前は不安でいっぱいだったが試合やチーム練習を楽しくすることができた。また新しいコミュニティを作ることができた良い機会となった。サッカーも楽しかったが硬式テニスもやりたいと思った。	グラウンドが滑りやすいと思った。	特に気になる点はありませんでした。	個人的に自分の記録としてオール青山に参加した際の写真がもらえたらいいなと思った。
女性	41-50歳	東京都区内	今回このような企画を考えてくださりありがとうございます。とても楽しく参加させていただきました。対戦相手の方々がとてもうまく勉強になりました。世代の異なる方々と交流もでき、とても貴重な時間でした。	陽射しが強く暑かったですが、クールダウンできる環境も用意していただき、誰も熱中症にならずに済み良かったです。	暑い中運営お疲れ様でした。スムーズに試合も運び、とても有意義な時間でした。ありがとうございます。	
男性	21-25歳	東京都区内	楽しかったです	よかったです	スムーズに進行してました	
女性	31-40歳	東京都区内	楽しく試合ができました。なのでメンバーの仲を深めることができました。	とてもきれいなグラウンドでした。芝でのサッカーは減多にできず、良い経験になりました。	いつもありがとうございます。	またぜひ参加したいです。
男性	21-25歳	神奈川県	サッカー、フットサル	炎天下の中、人工芝のグラウンドでサッカーをしたため過ごし暑かった	熱気と活力に溢れていた	
女性	16-20歳	千葉県	いつもしないスポーツで急に参加したけど、楽しかった。	エアコンついた部屋もあって、暑かったけど頑張れました。	きちんと企画が進んでよかったと思います。	
男性	21-25歳	東京都区内	大変だったけど非常に面白かったです	冷房完備の教室用意してくれて良かったです	素晴らしいと思います	
男性	51-60歳	東京都区内	年齢差、体力差があるなか、とても楽しくプレーをさせていただき、チームメイトに大変感謝しています。特に、飯塚さん、逆井さんは、よく声をかけてくれるなど、気を遣ってくれて、すごくありがたかったです。また、一緒にやりたいです。	天候はさておき、とても良い環境だと思います。強いと言えば、時間が経つにつれて、だんだん日陰がなくなってきたのが辛かったです。（試合を見れる日陰の場所が減っていった）	このような機会を作って頂いた宮崎先生、関係者の皆さん、ありがとうございます。体が動くうちは参加したいと思いますので、よろしく願ひいたします。	宮崎先生、難しいかもしれませんが、一緒にプレーを楽しみたいです！
女性	41-50歳	東京都区内	若い大学生とブレい出来て楽しかったです。	広々としたグラウンドでプレーできたのはありがたかったが、いかにせん、暑すぎました。冷房ガンガンの控え室がなかったら、命の危機も感じる暑さでした。	非常に親切でみなさん感じのいい方ばかりでした。ただ…運営の時間は守っていただきかったです。昼頃は終了予定だったので、食べるものを全く持たずに昼過ぎまで、閉会式は炎天下で長く行っていたので、正直きつかったです。	
女性	11-15歳	東京都区内	年齢関係なくみんなと楽しく試合が出来たので良かったです。	グラウンドは広くて、芝生がふわふわで、とてもいい環境でした。	皆さん、優しくて、フレンドリーだったので、今回のイベントで楽しむことが出来ました。	
女性	41-50歳	東京都区内	年齢関係なく色々な方々と触れ合いサッカーを楽しめるイベント、とても楽しかったです。	クーラーがある休憩室がありとても助かりました。	宮崎先生をはじめ、みなさん準備から後片付けまでありがとうございます！	とても楽しいイベントに参加できて楽しかったです！またイベント楽しみにしています！
女性	21-25歳	東京都市内	楽しめました。	グラウンドで日影になるようなテントがあれば、..		暑い中運営等ありがとうございます。
女性	41-50歳	東京都区内	年齢の差がありましたが、私たちはとても楽しくフットサルができました。皆さんしっかり挨拶してくれ、お話をたくさんしてくれてとても素敵な学生さんたちでした。またフットサルをやらせていただきました。	人工芝がとてもよく、素敵なコートで試合する事ができて良かったです。教室を開放していただいたので試合と試合の間にクールダウンができました。	とても暑い中のイベント開催でしたが、こまめに声をかけていただき怪我や熱中症にならず終えられた事にとても感謝しています。	
男性	21-25歳	東京都区内	夏の暑さで大変でしたが、他大学のサッカー好きと友達になれたので嬉しかった	青学のグラウンドでできるのは嬉しい	楽しませてくれてありがとうございます。	
男性	21-25歳	東京都区内	他校のフットサルチームや団体との交流ができ、質も強度も高くとても楽しい大会になり大満足でした！	グラウンドの芝もとても綺麗でさらにアップスペースやシャワー室や選手達が円滑に大会に挑める環境があり、何となく自由な気分でした！荷物などの場所がチームによってバラバラであった為、そこがチームごとに決まっていると盗難防止などにもなるのでは思ったりもしました。	大会の進行が上手く行くようにタイムキーパーや選手の管理など様々な面でとてもサポートしてくださり、とても助かりました！ありがとうございます！	このような大会に招待してくださり、ありがとうございます！私たちのチームは優勝もすることができ、大満足でしたし、様々なチームとの交流も含め刺激になりました！また次の大会に招待していただけたら2連覇を掴む為に誠心誠意全力で挑もうと思っています！本当に本大会含め、大会を運営してくださった方々に御礼を申し上げます。ありがとうございます。

3-5 異文化交流とインクルーシブコミュニティの創生

3-5-1 【国際センター協力企画】「グローバルスポーツコミュニティ」

毎週月曜日開催 年間 26 回開催

時間：15:15～16:45

会場：青山キャンパス記念館体育館フロア

外部指導者：1～2 名

運営担当学生：1 名

活動内容：

外国人留学生が入国を始める 2022 年 9 月より、新たな環境下で生活を始める学生たちの絆を深め、健康体力の増進を目的として期間中毎月実施した。翌年、2023 年からは毎週月曜日開催に変更し各回 20 名弱の参加者が各種スポーツを楽しんでいる。継続的に実施するなかで、外国人留学生の関係に加え日本人チューター、他専攻の留学生、他大学の留学生へとスポーツを通じた交流が広がることが今後の課題としてあげられる。そのためにも、定期的かつ継続的に事業を実施すること、参加しやすい曜日、時間帯の検討などが懸案となる。また、日本特有の慣習を学ぶ機会として空手、弓道などの武術を採用することも検討したい。



※2023年前期実績						
	日程	外部講師	学生リーダー	合計	外国人留学生	チューター
1	4月24日	X	○	記録なし	記録なし	記録なし
2	5月1日	X	○	7	4	3
3	5月8日	X	○	10	5	5
4	5月15日	X	○	13	8	5
5	5月22日	○	○	10	5	5
6	5月29日	○	○	12	7	5
7	6月5日	○	○	10	4	6
8	6月12日	○	○	14	9	5
9	6月19日	○	○	9	4	5
10	6月26日	○	○	10	7	3
11	7月3日	○	○	17	13	4
12	7月10日	X	○	20	12	8
13	7月17日	○	○	31	19	12
		8回	13回	163	97	66



募集要項 2023 年前期実績 活動の様子

3-5-2 【学生企画・国際交流共同企画】

「ドイツニュルンベルクスポーツユース交流サポート」

日程：2023年8月18日（金）16:30～19:00

会場：青山キャンパス 17号館教室、記念館フィットネスセンタースタジオ

共催：東洋大学

協力：体育会空手部 経営学部スポーツマネジメントゼミ

訪日団：10名

サポート：東洋大学8名 経営学部学生1名

運営（ドイツ語通訳）：外部1名

活動内容：

東洋大学との共同企画として実施した国際スポーツ交流企画である。



活動の様子



空手体験

【経営学部スポーツマネジメントゼミ企画・運営学生報告】

「ドイツニュルンベルクスポーツユース交流サポート」企画・運営担当 R.S. くん

私はドイツのニュルンベルク学生との交流を行った。彼らと私達の言語や風貌はかなり異なっていた。しかし、スポーツなどの共通の話題を通せば、特定の目標を達成する為に、お互いに協力し合えると感じた。具体的には、e-sportの観点からマリオカートを日独混合のチーム戦で実施したこと。言語が通じにくい中でも、身振りや手振り、簡単な会話を通して、プレイヤーとチームが勝てる様に、メンバーそれぞれがサポートをした。この様に、スポーツなどの共通の話題を通じて、様々な障壁があっても、目標達成の為に、協力し合えることを学べた良い機会であった。その為、今後はスポーツ×異文化交流の観点にも、注目していきたい。

3-5-3 【学生企画】グラスルーツスペインサッカークラス 7/24（月）、7/31（月）

日程：2023年7月24日（月）17:00～18:30、7月31日（月）16:30～18:00

会場：青山キャンパス高中部グラウンド

大学総合型地域スポーツクラブを用いたアクティブラーニングプログラムに関する考察

指導者：FC バルセロナ下部組織指導者 1 名、通訳兼コーディネータ 1 名

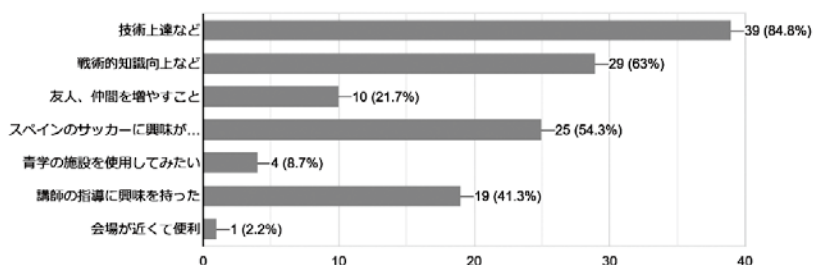
運営担当：2 名

企画運営学生：経営学部スポーツマネジメントゼミ、オールア青山スポーツコミュニティ

居住地	人数
東京23区内	26名
東京都内	7名
横浜市・川崎市	7名

このイベントに期待することは？

46 件の回答



グラスルーツスペシャル企画「スペインサッカークリニック」 参加申し込み

- ・第1回7月24日（月）17:00～18:30 高中部グラウンド
- ・第2回7月31日（月）16:30～18:00 高中部グラウンド
- ・この夜、来日するスペイン人サッカー指導者によるサッカークリニックです。
- ※指導者の詳細は後日、メール等にてお知らせします。
- ・参加無料です。
- ・こちらのフォームに参加前日16:00までにお申し込み願います。

2日間参加者	
年齢	人数
6	3
7	2
8	5
9	3
10	1
11	7
12	8
13	4
14	2
21	1
28	1
47	2
50	1
合計	40

募集要項



活動の様子



バルセロナ指導者と参加者

資料 参加者アンケート結果（回答7名）

性別	年齢	居住地域	イベント内容について	活動環境について	指導者、運営者、スタッフについて	その他
女性	11-15歳	東京都区内	練習したことをゲームで実践できて楽しかったです	人工芝で練習でした	わかりやすく指導してくれてよかったです	
男性	0-10歳	東京都区内	バスサッカーを教えてもらえて良かったです	広くて綺麗だった	声が大きくて聞こえやすくてよかったです	
男性	0-10歳	東京都区内	習熟保護者ボランティアのサッカーチームに所属しているため、プロの指導者のご指導に感謝しました。「ボールを持っていない時こそ考える」というテーマが子供にない視点なのでとても勉強になりました。ぜひまたサッカークラスに参加したいです。また日程が合わず野球場に行けなかったのが後期もぜひやってほしいです。	延大の教室が控え室で使えるのもとてもありがたいです。	毎回無料でやって頂けて本当にありがたいです。	
男性	11-15歳	渋谷区・港区	こんな素晴らしいイベントがある事を今回初めて知りました。文字通り草の根運動ですね。	長男の通っている学校のグラウンドですが次男がサッカーを出来る、とても羨ましがっていました。	声も大きく、指示がはっきり明確でリーダーシップを発揮されていて、良かったです。	無料だったのが驚きです。任意の寄付制にして、どこかに寄付するとか出来ないでしょうか。
男性	11-15歳	東京都区内	楽しかった。身体を聞いて前に向かう技術を教えてもらったので、身につけていきたいと思った。あえて言うなら、もう少し強度の高いグループに参加したかった。	ボールが蹴りやすい人工芝でびっくりした。	みんな、楽しかったです。	スペイン語のバモス！の意味など、事前に本を読んだり音楽の勉強になりました。練習だけでなく、交流という貴重な機会に参加させていただき、どうもありがとうございます。
男性	0-10歳	東京都区内		とても良い	とても良い	
男性	11-15歳	東京都区内	スペイン人の人が教えてくれることだけで、地味な前からすごく楽しかったです。実際にやっているときも、説明がわかりやすく、意識することなども明確に説明してくれて、すごくやりやすかったです。練習内容のレベルも高かったし、やって楽しかったので、参加して良かったなと思います。	芝は人工芝というのはすごく良いと思うし、プレーしているときも、すごくやりやすかったです。	スタッフさんは話しやすかったし、質問なども気軽にできたので、良かったです。	また練習会を行ってください！

3-6 障がい者の生活環境をスポーツ活動を通じて体験する

スポーツ基本法の改正によりスポーツ参画機会の保障が謳われ「全ての人がスポーツにアクセスできる社会」を目指しスポーツ活動を各競技団体が取り組んでいる。日本サッカー協会（以下JFA）の取り組みは先進的で、競技力向上にのみフォーカスすることなく、その土台をなす裾野を拡大する活動を「グラスルーツ」と称して取り組んでいる。その対象には『7つの障がい者サッカー連盟』が含まれJFAは「インクルーシブフットボール体験」として、全てのプレーヤーが同じ場所でサッカーをプレーするための理解、工夫を提供する研修を実施している。本学では、この取り組みを学院の児童、生徒、学生さらには近隣地域の皆さんと共有する取り組みを実施している。さらに前掲の「ウォーキング・フットボール」は、老若男女が同時に楽しめるサッカー種目として参加者を増やしているが、同じルール、同じコートで障がい者と共にプレーできるという特徴を持っている。実際に本学の取り組みでは聴覚障がい者、視覚障がい者（弱視）が一緒に参加しており、ルールの調整によっては車いす利用者が参加している大会などもある。

3-6-1 インクルーシブ・フットボール～JFA 障がい者サッカー体験研修会～

対象：青山学院高等部、大学経営学部スポーツマネジメントゼミ学生

日時：2022年8月2日（火）13:00～17:00 会場：青山学院高等部グラウンド・青山学院大学 N202 教室



アンプティサッカー体験



アンプティサッカー体験用装具

2022 年 8 月 フィードバックアンケート（障がい者サッカー研修）

高校生（サッカー部所属）対象インクルーシブフットボール（障がい者サッカー）研修での気づき
感想・意見など 23 件の回答から抜粋

- ・目線に立つ難しさ
- ・人それぞれでルールを変える必要がある
- ・みんなで楽しめるようにルールなどを考えてることが大切だと思った
- ・普段出来ない経験が出来て良かった
- ・障がい者への配慮
- ・他の人のことを考える大切さがわかった
- ・今までにない経験だった
- ・とても楽しかったし、将来のためになった。
- ・サッカーにも様々な種類があり、その内容を沢山知れて良かった。
- ・初めて知ることがたくさんあった
- ・楽しみながら、障がいのある人の凄さや様々な人が楽しめる工夫を知ることができました。
- ・サッカーはみんなが楽しめるもので、楽しむために色々な工夫をすることが大切だと感じた。
- ・単純に、今までずっとサッカーをしてきたけれど、知らないことばかりだなと思った。
- ・障がい者にも楽しくサッカーができるように工夫がされていることがわかった。
- ・私が今まで触れたサッカーとは違う一面が見えたほか、
通常の生活でも応用できる考え方を学べたので、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・工夫をすれば、誰でも楽しくプレーできることを知れました。
- ・普段できているサッカーをあたり前だと思わず、
できている自分の体と環境に感謝してプレーしていきたい
- ・五感、身体にも障がいがないことは改めて感謝しなければいけないことだと思った。

3-7 アスリートのパフォーマンス向上プログラム

3-7-1 【学生企画】メンタルトレーニング教室「心を整え実践するための科学」

日程：2023 年 7 月 10 日（月）15:10～16:40

会場：記念館体育館控室

参加者：大学生 8 名

※不定期開催、面談方式でアスリート対象メンタルサポートプログラムコンサルティング
2023年4月よりトライアル不定期開催



講習会の様子

3-7-2 【学生企画】アスリート対象「メンタルトレーニング講習会」

日程：2023年12月4日（月）18:30～21:00

会場：青山キャンパス内教室

講師：外部講師2名

企画運営：経営学部スポーツマネジメントゼミ

運営担当：1名

活動内容：

3-8 オール青山スポーツコミュニティプロジェクトと社会貢献事業への参画

オール青山スポーツコミュニティプロジェクトは、社会課題解決をスポーツにより推進するというJFAの活動指針に賛同し、2022年9月より「JFA なでしこひろば運営者」として、女子サッカーの普及活動を継続している。その後、2023年3月より「JFA グラスルーツ推進賛同パートナー」として認定され、2023年4月からは更に対応領域を広げJFAと共にサッカーを通じた社会貢献・SDG'sを推進する「アスパス!」の一員として活動している。このように関連スポーツ団体と連携して公式サイトに取り組みを掲載することにより参加者への認知、ボランティア賛同者の獲得、大学社会貢献活動の広報など広範かつ有効な活動継続に有用であると考えます。



資料 公式HP掲載「グラスルーツ推進」賛同パートナーバナーと「アスパス!」社会貢献・SDG's推進バナー

4 アクティブラーニングプログラムの一環としての大学総合型地域スポーツクラブ活動

アクティブラーニングの施策として大学における総合型地域スポーツクラブは、先行研究からも明らかなように「場の提供」と「人材の確保」、「プログラムのバリエーション」といった「大学資源」を、未開発分野に応用することによって、教学分野への有用な活動が可能となることが示唆される。具体的に前掲の各事例を振り返ると学生は様々な立ち位置から本プロジェクトの活動に参加していることが理解できる。スポーツ活動参加者として、指導者研修としてプロフェッショナル指導者に学ぶ実践授業形式の受講者として、体育会クラブに所属する学生やスポーツ指導に関わる意欲のある学部学生へのキャリア形成の機会提供を継続している。卒業後の進路としてスポーツ選手を目指す学生たちへのアスリート活動を終えてからのキャリア形成の場として有用である。実際に本プロジェクトには現役プロ選手が携わることで、参加者に対して現役選手としてのデモンストレーション、プロ選手としての立ち居振る舞いを示すことで、若年層が目指すべき「ロールモデル」として多くの情報提供をしている。これはまさに関係者すべてに相乗効果をもたらすスポーツコミュニティのイノベーションとして認識される形態である。以下には本プロジェクト活動を視察、運営補助して頂いた関係者からのコメントを掲載した。

※インタビュー形式を採用せず、対話者との一般的な会話の中で発せられた話題を抜粋

-
- ・大学教職員 広報課 サッカー大会、なでしこひろば参加職員
とても良い取り組み。広く校友に知ってもらいたい。
 - ・大学教職員 指導研修参加職員 レスリング部監督
学生にとっても社会との繋がりを意識して、行動することは大切。就職の際にも必ず問われる活動となる。
 - ・大学教職員 ベースボール教室視察
地域の皆さんへの大学施設の紹介、体験。学生との時間共有
 - ・大学教職員
大学キャンパス施設の開放、子供たちの健康体力増進、スポーツ活動の場の提供、友人、子供仲間がスポーツにより時間共有ができる。職場の仲間と親子でスポーツを通して共通の時間を得ること、心身の健康作りには欠かせない時間となる。
 - ・初等部教職員 キッズスポーツチャレンジ視察
親子にとって時間共有は、良い時間。大学生との交流 是非とも今後とも子供たちに進めていきたい。特にキッズスポーツチャレンジにおいては初めて体験するスポーツとしての社交ダンスは興味深い。
 - ・中等部教職員
指導に携わる大学生にとって良い経験となる。大学体育会で取り組むスポーツも、同キャンパス内にある初等部、中等部、高等部で継続的に実施する環境を作り出すことによりスムーズなスポーツキャリア形成が可能となる環境作りは大切である。 時間帯、日程が生徒の帰宅、下校に及ば

す規則改正等 保護者との関係などの課題あり。

・ 中等部教職員

外部のスポーツ経験者が生徒たちに良い影響 障がいのある方々への理解を深める。

・ 高等部教職員

スポーツを通して、卒業していった校友との繋がりがより深まる機会となる。また、校友の家族が次の世代の本学院を担う人材となること、このような循環を作ることは大いに意義のあることと考える。スポーツはそれを可能とするコミュニティを形成する。また、社会貢献事業の大切さを、この年代で経験することは高校生の成長に大きな影響を与える。

次年度活動に向け指導者養成と選手育成の両面に加えて、マネジメント人材の教育実践の場とする教学的な活動も検討課題である。下記のような講座を設置提案、検討を継続する。

「スポーツマネジメントキャリア演習（仮称）」

到達目標：

- ・ スポーツ事業企画提案、運営方法、実践指導方法、マーケティング実践、評価スキルなどの獲得。
- ・ 他学部社会連携事業講座とのコラボレーション
- ・ スポーツマネジメントを専攻する経営学部ゼミとのコラボレーション

目的：社会課題の抽出、実感する場として、スポーツを通して課題を解決する場として、社会貢献とは何かを知り実践し、現場の活動を通して地域との繋がりを構築する。

5 まとめ

青山学院大学 CAS プロジェクトを支える両輪である「研修」と「実践」のなかでもスポーツによる社会貢献事業、学院連携事業により「実践」を推進する「オール青山スポーツコミュニティ」は、学院内有志によるボトムアッププロジェクトとして活動開始から約1年を経過した。本研究はこの活動に着目して新たなアクティブラーニングプログラムの開発とその有用性を検討した。

大学資源として期待される「場」、「ソフト」と「人材」において教育機関としてこれらの活動を大いに活用する機会が求められる。本稿ではこれまでの活動を振り返ることにより、アクティブラーニングの場としての有用性が示唆された。これにより学院内や地域社会におけるインクルーシブな社会構築に向け、教室での学びを実践の活動として結実させる機会を創出する教育プログラムの実践が期待される。

今後、持続可能な活動を目標として大学、行政、地域コミュニティとの有効な関係構築を目指すものである。これは本学におけるスポーツ活動が社会課題解決に向けた一助となり、多様なコミュニティが多くの人々を繋ぐ絆となることを目的とする取り組みとなろう。

参考文献

- 1) 馬場宏輝, et al. 大学を核とした総合型地域スポーツクラブの創設・育成・運営の可能性について：仙南広域スポーツ研究会の活動報告から. 仙台大学紀要, 2008, 40.1: 111-123.
- 2) 海老島均. 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブに関するアンケート（地域貢献アンケート結果報告）. 大学体育, 2012, 39.2: 115-118.
- 3) 池田孝博, et al. 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブの運営に関する諸問題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 2010, 19.1: 1-8.
- 4) 荏部俊二. 特定非営利法人総合型地域スポーツクラブ 法政クラブの設立：法政大学体育・スポーツ研究センターのスポーツ公開講座を背景として. 法政大学体育・スポーツ研究センター紀要, 2012, 30: 9-17.
- 5) 荏部俊二；高橋誠；成田道彦. 特定非営利活動法人総合型地域スポーツクラブ法政クラブ 10年の足跡と課題. 法政大学スポーツ健康学研究 = *Bulletin of Faculty of Sports and Health Studies Hosei University*, 2021, 12: 1-9.
- 6) 舞寿之, et al. 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブに関する研究—桃教スポーツアカデミーの実践より. 桃山学院教育大学研究紀要, 2023, 5: 76-90.
- 7) 宮崎純一. 大学総合型地域スポーツクラブのマネジメント：社会課題解決に果たすスポーツの役割. 青山経営論集 = *Aoyama journal of business* / 青山学院大学経営学会 編, 2023, 58.2: 1, 3-34.
- 8) 宮崎純一. 社会連携拠点としての大学総合型地域スポーツクラブ：スポーツ庁・UNIVAS「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業」事例報告. 青山経営論集, 2023, 58.1: 21-44.
- 9) 宮崎純一. スポーツコミュニティ創出とソーシャル・キャピタル：スポーツ庁「感動する大学スポーツ支援事業」の事例より. 青山経営論集, 2022, 57. 別冊：25-43.
- 10) 宮崎純一. スポーツコミュニティの創生に関する考察：ドイツにおけるスポーツ振興の発展と現状. 青山経営論集, 2022, 57.2: 117-132.
- 11) 水上博司；黒須充. 総合型地域スポーツクラブの中間支援ネットワーク NPO が創出した公共圏. 体育学研究, 2016, 61.2: 555-574.
- 12) 永谷稔；築瀬歩；梅垣明美. 大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブ化への模索について. 北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要, 2005, 43: 43-52.
- 13) 永谷稔. 学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブの連携について：都市と地方都市クラブにおける事例比較. 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要 = *Bulletin of Hokusho University School of Lifelong Sport*, 2015, 6: 29-36.
- 14) 中村好男. 総合型地域スポーツクラブを通じた大学と地域との連携. In: 日本体育学会大会号 第 52 回 (2001). 一般社団法人 日本体育学会, 2001. p.38.
- 15) 関根正敏；柳沢和雄；川邊保孝. 総合型地域スポーツクラブの設立をめぐる正当性の確保と地域生活の歴史に関する研究. 体育・スポーツ経営学研究, 2009, 23: 33-47.
- 16) スポーツ庁, 第 3 期スポーツ基本計画, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413_00001.htm (2023 参照)
- 17) 炭谷将史. 総合型地域スポーツクラブを対象とした研究における成果と今後の課題. スポーツ産業学研究, 2012, 22.2: 281-293.
- 18) 炭谷将史. 大学を核とした地域密着型スポーツクラブの意義と課題～大学側の視座からの考察～. 聖泉論叢, 2014, 21.
- 19) 高橋仁美, et al. 地域と大学が連携した総合型地域スポーツクラブとしてのチアリーディング教室の取り組み. *Doshisha Journal of Health & Sports Science*, 2009, 1: 79-91.
- 20) 高橋美穂子；タカハシミホコ. 総合型地域スポーツクラブの取り組み：NPO 法人群大クラブキッ

- ズダンス教室を例として. 白鷗大学教育学部論集, 2013, 7.2: 433-452.
- 21) 竹田正樹, 「京たなべ・同志社スポーツクラブ」を例とした大学と地域連携による地域総合型スポーツクラブの提案. 同志社スポーツ健康科学=Doshisha Journal of Health and Sports Science, 2009, 1: 61-70.
 - 22) 田中克実, et al. 大学における総合型地域スポーツクラブの展望. 東海学院大学紀要, 2022, 16: 35-44.
 - 23) 与那覇秀勲; 高松祥平. 大学を拠点とする総合型地域スポーツクラブの発展 地域トリプルヘリックスモデルの応用. 生涯スポーツ学研究, 2020, 17.1: 41-52.
 - 24) 吉村功. 学生が運営する総合型地域スポーツクラブの事例報告 (1): SPORTS 北海道函館キャンパスについて. 北海道教育大学紀要. 教育科学編, 2019.